

# 国際化推進センター・教学 支援部グローバル推進課

2024 年度 成果報告書



# 目次

## I. グローバルパートナーシップ形成

海外訪問	3
海外からのご来訪	4
OB ネットワーク	8
国際交流協定の締結	9
その他の活動	9

## II. 学生交流

### 海外への学生派遣

1. 交換留学	11
2. 海外研修プログラム	11
3. 海外留学のフォローアップ	14

### 海外からの学生受入

1. 交換留学	17
2. 日本語・日本文化短期プログラム	17

A <sup>3</sup> I：アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム（通称：A <sup>3</sup> I）	18
---	----

## III. 日本語教育・留学生サポート事業

### 日本語教育

1. 日本語 Intensive コース	25
2. 日本語補講	28
3. 日本語・国際共修科目	32

### 留学生サポート

1. 留学生支援・相談、文化交流	37
2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）	43

## IV. 国際化教育

### G-フィロス

1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート	56
-----------------------------------	----

## V. 地域貢献

留学生の地域との交流	62
小・中・高等学校への留学生派遣	63

VI. 国際交流関連データ	65
---------------	----

# 国際化推進センター長挨拶

西崎 博光  
国際化推進センター長

本報告書では、第4期中期目標・中期計画に掲げる本学のグローバル化に関する目標達成に向けて、国際化推進センターと教学支援部グローバル推進課のスタッフが一丸となって取り組んできた活動をまとめています。2024年度は、第4期中期目標・中期計画の3年目として、国際的な教育プログラムの充実、異文化交流の促進、留学生の受入・派遣の拡大などを目標に活動を展開してまいりました。コロナ禍からの完全回復を果たし、対面での国際交流が本格化した1年となり、海外大学からの訪問団の来学や留学生の往来も活発に行われました。これらの2024年度の活動内容を、Ⅰ. グローバルパートナーシップ形成、Ⅱ. 学生交流、Ⅲ. 日本語教育・留学生サポート事業、Ⅳ. 国際化教育、Ⅴ. 地域貢献、Ⅵ. 国際交流関連データの6つのパートに分けて紹介しています。

グローバルパートナーシップ形成では、中国・五邑大学からの代表団の訪問により、今後の教育・研究分野での交流推進について意見交換を行いました。また、中国・蘇州大学との新規交流協定を締結したほか、バングラデシュ・クルナ大学およびクルナ工科大学との学術交流協定を新たに締結しました。文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「アジア実問題解決駆動AI教育プログラム(A3I)」を通じて、杭州電子科技大学(中国)、国立釜慶大学校(韓国)、ペルリス大学(マレーシア)との連携が一層強化されました。特に、2024年10月には、杭州電子科技大学との電気電子工学コースにおける修士課程デュアル・ディグリープログラムの第一期生20名の開講式を本学で挙行し、両大学間の絆を深める機会となりました。2024年度末時点で24カ国・地域、87大学との間で大学間交流協定を締結するに至っております。

学生交流においては、A3I事業を通じて、AI人材の育成に向けた実践的な交流プログラムを展開しており、2024年8月には本学甲府キャンパスにてA3Iショートプログラムを開催し、中国・杭州電子科技大学、韓国・釜慶大学校、マレーシア・ペルリス大学から計14名の学生を受け入れました。また、本学の学生を中長期留学プログラムで釜慶大学校に派遣し、本学学生のグローバルな視野の涵養を図りました。

日本語教育・留学生サポート事業では、文部科学省委託事業「山梨留学生就職促進プログラム(IRCS)」を継続し、日本語教育、キャリア教育、企業理解教育を3本柱として、留学生の日本での学びと就職をサポートしました。産学官連携による企業見学会やインターンシップを通じて、留学生のキャリア形成を支援しています。

国際化教育においては、本学の特色であるグローバル共創学習室(G-フィロス)によるEnglish Caféを前期・後期にわたり開催したほか、フィリピン、ベトナムなど各国出身の留学生による外国語カフェを実施し、本学の学生が英語を主体的に学ぶ機会の提供や、多様な文化理解の促進も進めてきました。参加した学生は、語学スキルの向上と、グローバルな視点の涵養・異文化理解を深める機会を得たものと思います。

地域貢献においては、外国語カフェ等の国際交流イベントを地域住民にも公開し、地域の国際化に貢献しました。また、JST さくらサイエンスプログラムを通じて、トルコ、カンボジア、バングラデシュから学生を招へいし、「食の持続性」をテーマとした国際的な課題解決に取り組む機会を提供しました。

これらの取り組みの成果として、本学の外国人留学生数は2024年11月1日現在で271名に達しました。国費留学生45名、私費留学生214名、政府派遣留学生12名と、多様な形態で留学生を受け入れております。A3I事業やデュアル・ディグリープログラムを通じた国際共著論文も増加傾向にあり、本学の国際的なプレゼンスは着実に向上しています。これもひとえに、中村和彦学長のリーダーシップのもと、国際化推進センター及び教学支援部グローバル推進課のスタッフ全員の献身的な努力、そして各学域や附属教育・研究施設の皆様からの多大なるご支援とご協力の賜物です。この場をお借りして心より御礼申し上げます。



# I. グローバルパートナーシップ形成

---

本学の特色あるさまざまな研究分野を通して、新たな海外大学との交流が広がりつつあります。国際化推進センター・教学支援部グローバル推進課では、新たな協定締結や海外からの訪問者受け入れを通して、山梨大学の更なるグローバル化に向けて、グローバルパートナーシップの形成を推進しています。

# 海外訪問

## 学長・教職員の協定校等訪問

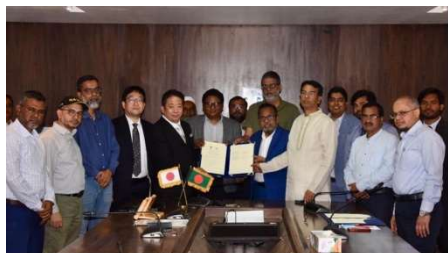
海外の交流協定校や、新たな協定締結の可能性があるその他の教育機関等を、学長他、関係する教職員が訪問し、グローバルパートナーシップの強化・拡大に努めています。2024年度の海外訪問について、以下に報告します。

### (1) 埴雅典副学長、西崎博光国際化推進センター長が Bangladesh のクルナ大学、およびクルナ工科大学を訪問

令和7年3月10日（月）、本学の埴雅典副学長、西崎博光国際化推進センター長が、Bangladesh の主要高等教育機関であるクルナ大学、およびクルナ工科大学を訪問し、両大学と本学の学術交流協定締結の調印式を挙行了しました。

調印式には、クルナ大学のレザウル・カリム副学長、クルナ工科大学ムハンマド・マスド副学長、モニル・ホサイン教授、出席しました。また式の後には、現地の学術関係者との間で活発な意見交換を行いました。

今回の協定調印および交流を通じて、学術交流の推進・研究交流が期待されます。



クルナ大学との協定の締結



クルナ工科大学との協定の締結

# 海外からのご来訪

## 海外の大学からのご来訪

海外の交流協定校や、協定締結を視野に交流している大学からの、山梨大学への訪問について報告します。

交流協定校からは、学生交流のプログラム担当教職員が本学を訪れ、さらなるプロモーションに向けた打ち合わせなどが行われました。また、協定校以外にも本学の特色ある研究に興味を持つ海外の教育機関は多く、今後の協定締結に向けての訪問等がありました。

### (1) スロベニア・リュブリャナ大学のグレゴール・マイディッチ学長とノヴァ・ゴリツィア大学のボシュティヤン・ゴロブ学長が来学

令和6年4月2日(火)、リュブリャナ大学のグレゴール・マイディッチ学長とノヴァ・ゴリツィア大学のボシュティヤン・ゴロブ学長が、本学との国際交流についての意見交換を行うため、来学されました。両学長は、本学の先端的な研究であるグリア細胞研究や神経生理学研究、附属病院を視察されました。

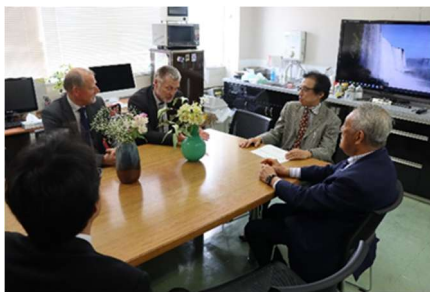
本学は、リュブリャナ大学と2017年に大学間交流協定を締結し、ノヴァ・ゴリツィア大学とは主にワイン研究を通じた学術交流を実施しています。

甲府キャンパスにおいて行われた意見交換会には、中村和彦学長、奥田徹理事(教学担当)、茅暁陽理事(グローバル推進担当)、岩崎甫副学長、国際化推進センターの西崎博光センター長が出席しました。会では、中村学長が「両大学と本学との教育、研究分野での交流推進はもとより、交換プログラムの促進にも寄与し、今後の学生や教職員間の更なる交流を願っています」と述べました。

今回の両学長の来学を通じて、リュブリャナ大学、ノヴァ・ゴリツィア大学と本学との更なる交流推進が期待されます。



意見交換会で挨拶する中村学長



グリア細胞研究等についての意見交換



記念撮影

## (2) インド・O.P. ジンダル・グローバル大学と意向表明書を締結

令和6年4月23日(火)、インド・O.P. ジンダル・グローバル大学のC・ラジ・クマール副学長他関係者6名が来学し、両大学間の交流の可能性を検討するため、甲府キャンパスにおいて、双方の学長が合意書を交わしました。

同大学は2009年に設立された非営利の学際的研究型大学であり、権威あるQS世界大学ランキング2023において、3年連続でインド私立大学第1位にランクされています。

本学からは、中村和彦学長、奥田徹理事(教学担当)、茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)、西崎博光国際化推進センター長が出席し、両大学の紹介をはじめ、意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両大学の今後の交流推進が期待されます。



意見交換会の様子



中村学長(左)とC・ラジ・クマール副学長(右)



記念撮影

## (3) フランス・ポー大学言語学習リソースセンター副センター長が来学

令和6年4月23日(火)、フランス・ポー大学言語学習リソースセンター副センター長 Geraldine Larguier (ジェラルディーヌ・ラルギエ) 教員が来学しました。

同大と本学は平成30年6月に大学間交流協定を締結しており、学生・教員の交流や共同研究を行っています。また、ポー大学が位置するフランス南西部ポー市は甲府市の姉妹都市でもあります。

今回の訪問は、両大学間の語学系パートナーシップの提案やさらなる交流についての意見交換を目的に行われたものです。

Larguier氏は大村智記念学術館を見学し、大村博士の功績や本学の歴史に触れた後、グローバル共創学習室(G-フィロス)でお昼休みに開催されているEnglish Caféを視察し、日本人学生と留学生が学生間で互いに学び合う様子を見学しました。

茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)、国際化推進センター西崎博光センター長及び布村猛助教との懇談では、今後のさらなる学生交流につき意見交換を行いました。

今回の来学を通じて、両大学の更なる交流推進が期待される有意義な意見交換の場となりました。



大村記念学術館見学の様子



G フィロス視察

#### (4) タイ・コンケン大学経済学部教職員が来学

令和6年5月23日(火)、タイのコンケン大学経済学部の教職員22名が本学を訪問されました。

同大学と本学は、大学間交流協定を締結しており、学生の交換留学を始め、教員・学生の交流や共同研究を行っています。

今回の訪問は、キャリアガイダンスや就職支援についての視察と意見交換や本学のスマート農業におけるAI・AR技術のデモンストレーションを通して、更なる交流を深めることを目的に行われたものです。

西崎博光国際化推進センター長より本学の特色についての説明があった後に、本学のキャリア教育及び進路支援について、山本和美キャリアセンター特任教授による紹介をもとに、布村猛国際化推進センター助教を交えて、タイと日本のキャリア教育の違いや学生へのアプローチ方法についてなど、活発な意見交換が行われました。

その後、茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)からAI・AR技術の説明があり、デモンストレーションが行われました。

今回の来学を通じ、今後両大学の更なる交流推進が期待されます。



キャリア教育・進路支援の紹介



デモンストレーションの様子



記念写真

#### (5) マレーシア・ペルリス大学と修士課程デュアル・ディグリープログラム協定の調印式を挙

令和6年7月4日(木)、マレーシア・ペルリス大学のザリマン・サウリ副学長、ロジヤンティ・ラフマン准教授、ラティファ・ムニラ・カマルディン准教授が来学し、同大と本学との修士課程デュアル・ディグリープログラム協定の調印式を挙りました。この協定は、これまで両大学で行ってきた博士課程デュアル・ディグリープログラム協定の修士課程に発展させたものです。

調印式後には、甲府キャンパスにおいて、今後の両大学の更なる連携やデュアル・ディグリープログラムについての意見交換会が行われました。意見交換会には、中村和彦学長、茅暁陽理事(グローバル推進担当)、西崎博光国際化推進センター長、郷健太郎工学域教授が出席しました。

その後、本学に留学しているマレーシア・ペルリス大学の学生と関係者のミーティングも行いました。

今回の協定調印式及び交流を通じて、両大学の更なる学生交流推進・研究交流が期待されます。



マレーシア・ペルリス大学の学生による  
研究デモ



調印の様子：中村学長(左)と  
ザリマン・サウリ副学長(右)



記念撮影

## (6) 中国・杭州電子科技大学情報工程学院一行が来学

令和6年9月25日(水)、中国・杭州電子科技大学情報工程学院の管力明情報工程学院院長、张海平計算機学院執行院長、俞优姝電子工程学院副院長、曾昕情報工程学院人事課長、宿娜情報工程学院国際交流部常務副学科長が来学され、両大学間の交流と連携を促進するため、甲府キャンパスにおいて、意見交換会及び研究室見学が行われました。

本学からは、茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)、西崎博光国際化推進センター長、武井貴弘工学域教授、鍋谷暢一工学域教授、郷健太郎工学域教授、塙雅典工学域教授が出席し、両大学の紹介をはじめ、意見交換を行いました。

今回の訪問を通じて、両大学の今後の交流推進が期待されます。



意見交換の様子



研究室見学の様子①



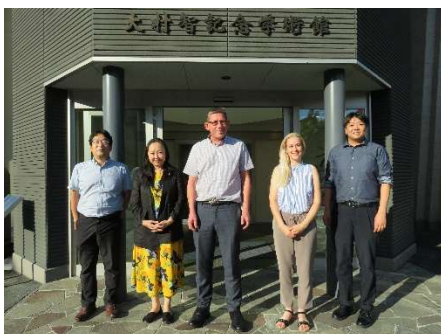
研究室見学の様子②

## (7) イギリス・レスター大学の Rob Crane 氏と Tamara Thompson 氏が来学

令和6年10月1日(火)、イギリス・レスター大学の Rob Crane 氏と Tamara Thompson 氏が来学され、両大学間の交流を促進するため、甲府キャンパスにおいて、意見交換会が行われました。

本学からは、茅暁陽本学理事(グローバル推進担当)、西崎博光国際化推進センター長及び布村猛助教、職員3名が出席し、両大学の紹介をはじめ、意見交換を行いました。その後、大村智記念学術館の見学を行いました。

今回の訪問を通じて、両大学の今後の交流推進が期待されます。



大村記念館での記念撮影



大村智記念学術館見学の様子

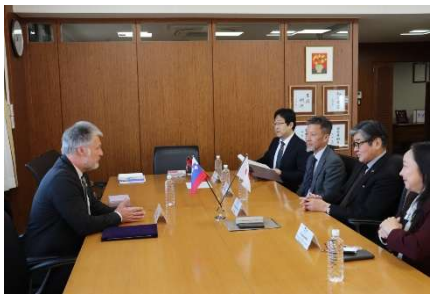
## (8) スロベニア ノヴァ・ゴリツァ大学と大学間交流協定を締結

令和7年2月28日(金)、スロベニア共和国ノヴァ・ゴリツァ大学のボシュティヤン・ゴロブ学長が来学し、同大との大学間交流協定の調印式を挙行了しました。

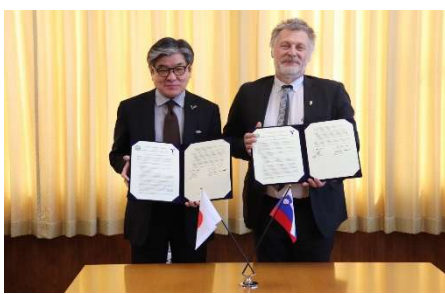
同大は、環境科学、ワイン科学、材料科学に強みを持ち、本学の研究分野とも共通点があります。本協定により、共同研究や教育プログラムの開発を通じて学術的連携を深め、知識と技術を共有し、新たな価値創造を目指します。

調印式には、中村和彦学長、茅暁陽理事(グローバル推進担当)、奥田徹理事(教学担当)、西崎博光国際化推進センター長が出席し、今後の協力について意見交換を行いました。

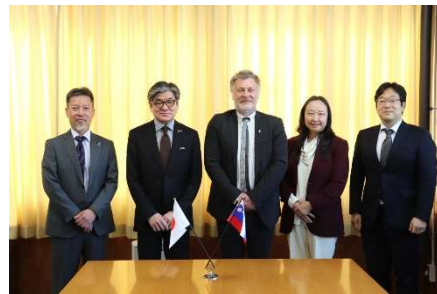
今回の協定調印及び交流を通じて、両大学の更なる学生交流推進・研究交流が期待されます。



意見交換の様子



中村学長(左)とボシュティヤン・ゴロブ学長(右)



記念撮影

## OBネットワーク

国際化推進センターでは、本学を卒業・修了した留学生とのネットワーク形成に向け、留学生同窓会の整備を進めています。

すでに同窓会に登録している卒業・修了生に対しては、山梨大学とのつながりを継続してもらえるよう、大学広報誌である『Vine』電子版や、年末年始の挨拶状をEメールで送信するとともに、国際化推進センターウェブサイトにも、Eメールと同様の内容で卒業・修了生へのメッセージを掲載するなどしています。このような海外在住の本学出身留学生とのネットワークを、本学の広報活動、海外での優秀な留学生の獲得に活用したいと考えています。



大学刊行物 電子版 <https://www.yamanashi.ac.jp/about/281>

国際化推進センター・グローバル推進課ウェブサイト <https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

# 国際交流協定の締結

2024年度には、以下7件の大学間交流協定、2件の部局間交流協定を締結しました。

大学間交流協定：

- ・2024年4月30日：サントトマス大学
- ・2024年8月4日：バングラデシュ農業大学
- ・2024年8月26日：王立ブノンペン大学
- ・2025年1月14日：チャナッカレ オンセキズ マルト大学
- ・2025年2月28日：ノヴァ・ゴリツツァ大学
- ・2025年3月10日：クルナ大学
- ・2025年3月10日：クルナ工科大学

部局間交流協定：

- ・2025年2月7日：ハミルトン・イースト・スクール（小学校）（教育学部）
- ・2025年2月25日：レキシントン公立学校（小学校）（教育学部）

## その他の活動

### 進学説明会実施・参加及び留学フェアへの参加

国際化推進センター・教学支援部グローバル推進課では、優秀な留学生をリクルートするため、毎年国内外のフェアへの参加や日本語学校、海外の大学を訪問することを通して広報活動を行っています。

2024年度は、以下3件の進学説明会又は留学フェアに参加し、本学の教育、研究上の特色、甲府市の住環境等に関する最新の情報を紹介し、地方の大学で学ぶメリットなど山梨大学の魅力をアピールしました。

- (1) 2024年度外国人学生のための進学説明会（東京）：2024年6月29日（土）
- (2) 国費学部留学生のための大学進学説明会（大阪大学）：2024年11月1日（金）※オンライン
- (3) 2024年度 JASSO 主催日本留学フェア（インドネシア）：2024年11月23日（土）～24日（日）



外国人学生のための進学説明



JASSO 主催日本留学フェア

## II. 学生交流

---

さまざまな分野で国際的な視野を持って活躍する人材を育成するため、日本人学生の海外派遣や、各国留学生との交流事業に力を入れています。日本人学生の海外留学や海外インターンシップへの関心は年々高まっており、派遣人数も増加傾向にあります。

また、海外派遣だけでなく、留学生受入数のさらなる増加を目指し、学生訪問団の受け入れや、在籍する留学生のサポート事業にも力を注いでいます。

# 海外への学生派遣

## 1. 交換留学

以下の通り、計 15 名の学生を派遣しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
米国	イースタン・ケンタッキー大学	2024 年 8 月出発～2025 年 5 月帰国	2 名
オーストラリア	シドニー工科大学	2024 年 7 月出発～2024 年 11 月帰国	1 名
		2024 年 7 月出発～2025 年 6 月帰国	1 名
		2025 年 2 月出発～2025 年 11 月帰国	1 名
中国	杭州電子科技大学 *A3I プログラム P. 20～21 参照	2024 年 9 月出発～2025 年 1 月帰国	1 名
韓国	釜慶大学校 *A3I プログラム P. 20～21 参照	2024 年 9 月出発～2025 年 1 月帰国	7 名
スロベニア	リュブリャナ大学	2024 年 10 月出発～2025 年 7 月帰国	1 名
		2025 年 1 月出発～2025 年 2 月帰国	1 名

## 2. 海外研修プログラム

例年、本学のプログラムとして、交換留学のほか、夏季・春季休暇中に語学・文化研修と、語学・文化研修に企業や学校、地方自治体でのジョブ・シャドイング（インターンシップ）が加わった海外研修を行っています。今年度も夏季・春季研修ともに現地に渡航してプログラムを実施しました。それぞれのプログラムについて以下にご報告します。

### (1) 夏季海外研修プログラム

協定校である下記の 4 校にて夏季海外研修プログラムを実施し、計 31 名の学生が希望するプログラムに参加しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
英国	レスター大学	2024 年 8 月 3 日～8 月 25 日	7 名
カンボジア	王立プノンベン大学、国際大学、カンボジア工科大学	2024 年 8 月 6 日～9 月 11 日	1 名
中国	杭州電子科技大学 *A3I プログラム P. 21 参照	2024 年 8 月 6 日～8 月 16 日	11 名
韓国	釜慶大学校 *A3I プログラム P. 21 参照	2024 年 8 月 12 日～8 月 22 日	12 名

### (2) 春季海外研修プログラム

協定校である下記の 4 校にて春季海外研修プログラムを実施し、計 28 名の学生が希望するプログラムに参加しました。

国・地域	留学先大学	期間	人数
米国	ケンタッキー大学	2025 年 2 月 2 日～3 月 8 日	7 名
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート	2025 年 2 月 23 日～3 月 23 日	8 名
カンボジア	王立プノンベン大学、国際大学、カンボジア工科大学	2025 年 3 月 1 日～3 月 22 日	1 名
マレーシア	マレーシア・ペルリス大学 *A3I プログラム P. 21 参照	2025 年 2 月 14 日～2 月 25 日	12 名

## ① 英国・レスター大学研修

日程：2024年8月3日～8月25日

本プログラムでは、山梨大学と交流協定を締結しているイギリス有数の総合大学であり、研究教育両面で高いレベルを誇っているレスター大学のキャンパスにあるEnglish Language Teaching Unit (ELTU) において実施されている、英語力とコミュニケーションスキルの向上や英国文化体験を行います。

語学研修では、4技能を伸ばせるコースだけでなく、医療・人文科学・ビジネスのコースから選択することができます。期間中には、ロンドンやオックスフォードへの散策もあり、現地の生活や観光を体験することができます。



## ② 米国・ケンタッキー大学英語・文化研修

日程：2025年2月2日～3月8日

本プログラムでは、米国ケンタッキー州内の最大規模の州立大学ケンタッキー大学 (UK) の Center for English as a Second Language (CESL) が運営する英語研修、文化研修、および、現地で開催される多様なイベントに参加します。ケンタッキー大学は1865年に設立され、U.S. News and World Report 誌によれば同州最高の学術研究機関でありながら、スポーツも盛んで、男子バスケットボールでは多くの NBA 選手を輩出しています。

語学研修では、各学生の英語レベルに応じて、各国から来た学生で構成されるクラスにて、きめ細やかな指導を受けることができます。毎日 (月～木曜日) リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの各授業にて、コミュニケーションに必要な語学力の習得し、英語の授業のほか、現地の学生との交流活動に参加しました。渡航前、渡航後にも1回ずつオンラインにて現地学生との交流を行いました。



### ③ カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学イングリッシュ・ランゲージ・インスティテュート英語・文化研修

日程：2025年2月23日～3月23日

ブリティッシュ・コロンビア大学（英：The University of British Columbia、略称：UBC）は、カナダのブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー市にあるカナダ州立の名門総合大学で、1908年に創立され、国際的に知名度も高いカナダ屈指の大学です。これまでの卒業生の中から3人のカナダ首相、さらに7人のノーベル賞受賞者を輩出しており、カナダの大学のランキングで常にトップ3に入る教育・研究面での水準の高さを誇っています。

今回の春季研修では、大学内にあるELI（English Language Institute）のASPIRE Intensive on Campusプログラムへの参加を通じて、現代的なトピックやテーマを通して英語を学び、気候変動対策、反人種主義、インクルーシブ・エクセレンス、ジェネレーティブ AI を含むデジタルリテラシーなどについて学びました。

また期間中は、ホームステイをし、現地の生活を体験しました。



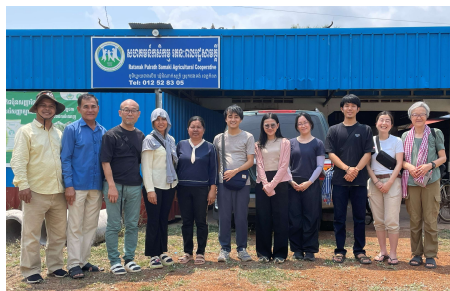
### ④ カンボジアのグローバルヘルス課題解決に取り組む共同フィールドワーク

日程：

(夏季)2024年8月6日～9月11日

(春季)2025年3月1日～3月22日

2023年度からカンボジア短期派遣プログラムを本年度も継続しました。今年度も夏季と春季の年2回実施され、参加学生は合計3名でした。このプログラムは学生が各自の実習計画を立案し、それに基づいた活動をカンボジア農村部で実施します。今年は水質調査とその結果報告のための家庭訪問、学校での健康教育、子どもの健康調査や保健センター訪問、フィールドワーク対象地域のリーダーから地方での暮らしの推移、ポルポト時代の様子などを聞き取り、虐殺が行われた場所が今は学校になっているなど、地域でも若い世代からは忘れられつつある歴史があることを学びました。学校での健康教育はその小学校の先生方の教材として活用されています。この過程でカンボジア協定校の学生との共同フィールドワークも実施しました。首都プノンペンではカンボジアの国立博物館や虐殺博物館等を見学し、歴史や文化を学びました。世界遺産訪問などの学生の独自企画の活動も行いました。



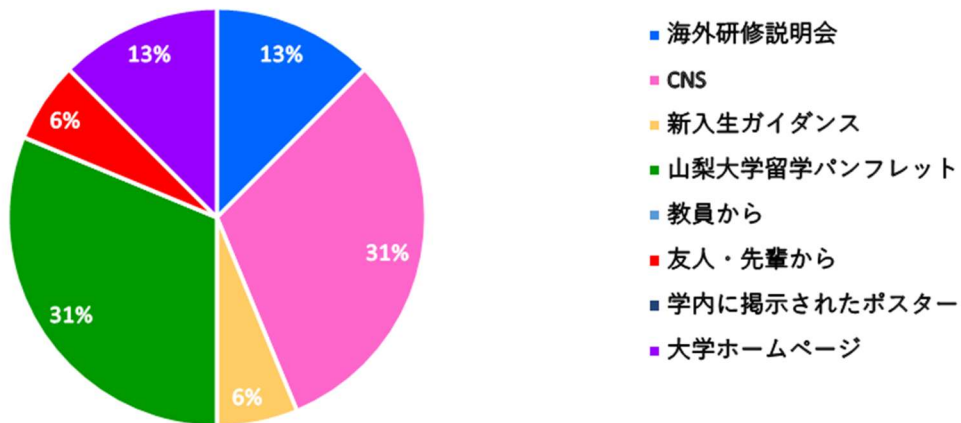
### 3. 海外留学のフォローアップ

本学のプログラムで留学する学生に対して、交換留学及び海外研修プログラム共に、事前指導や帰国後のフォローアップを行っています。その一つとして、留学・研修に参加する学生を対象に、留学前・留学後のアンケート調査を行っています。異文化交流や語学学習を通じて学生にどのような変化があるのかを測ると同時に、参加者の声を聞くことによって、次年度以降の海外研修プログラムの充実を図っています。

本報告書では、春季・夏季プログラム参加学生に対し実施したアンケート結果を紹介します。（参加者の内16名が回答）

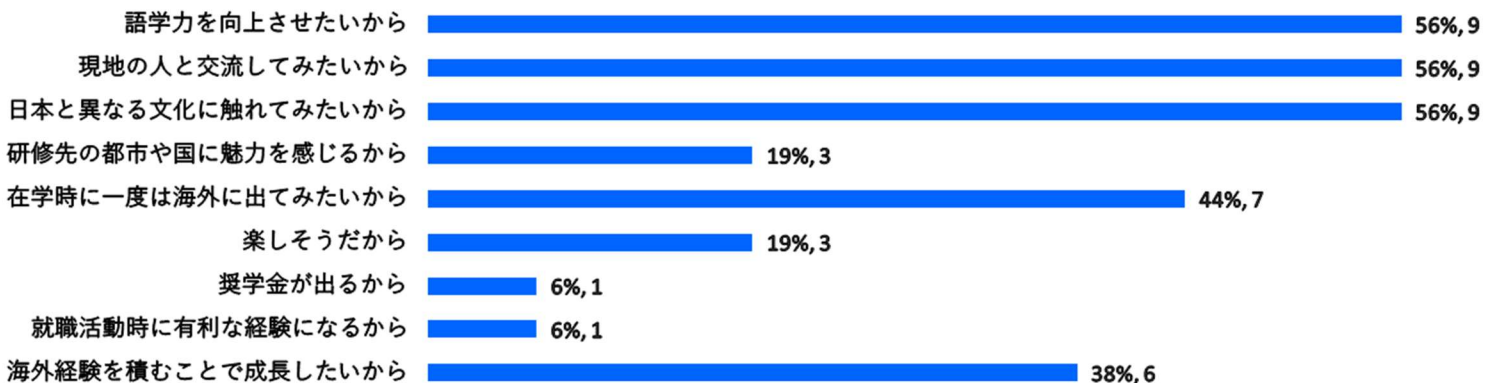
#### この語学研修を何で知りましたか

※16件の回答



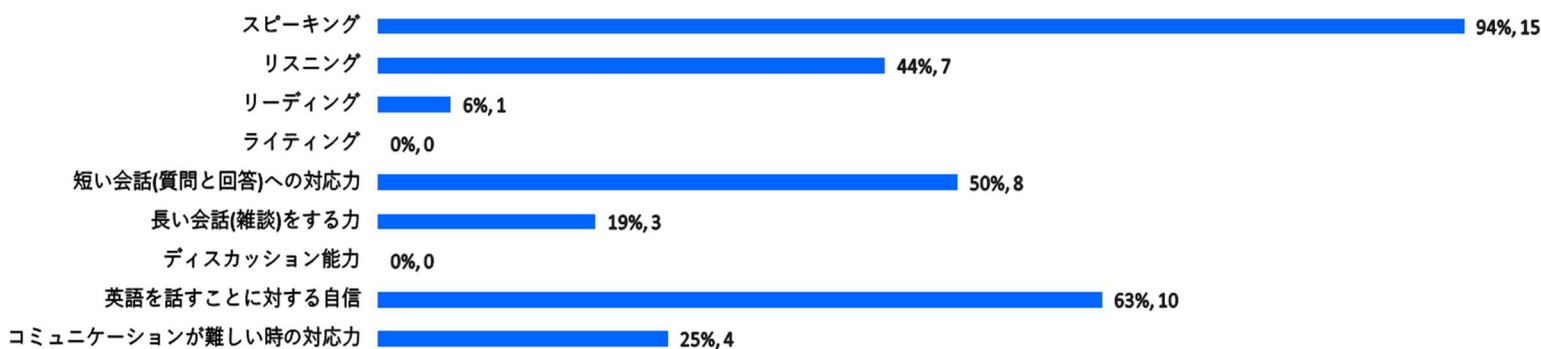
#### なぜ本研修に参加しようと思いましたか(複数回答可)

※16件の回答



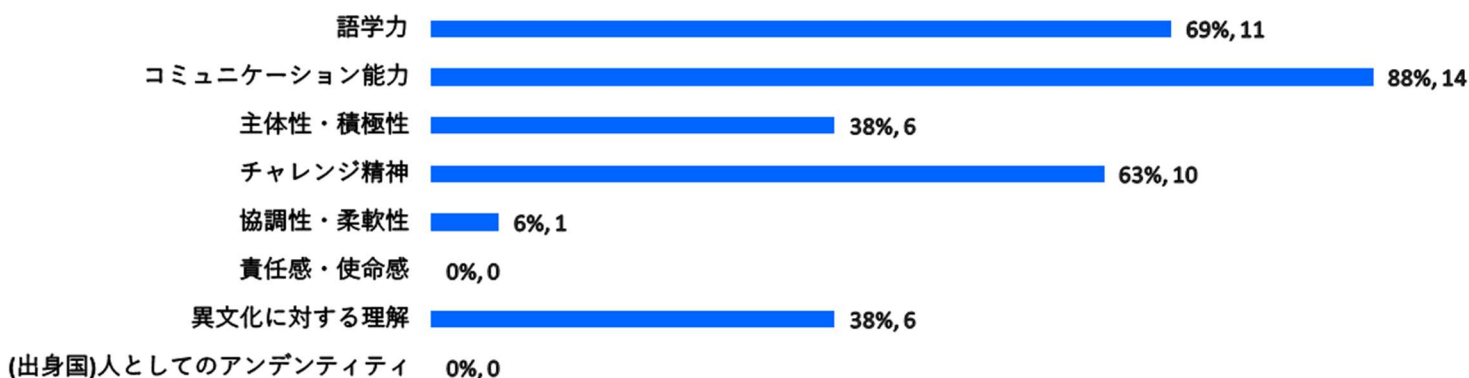
この研修で英語力の中のどのようなスキルを特に上達させたいですか(複数回答可)

※16件の回答



グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を3つ選んで下さい

※16件の回答



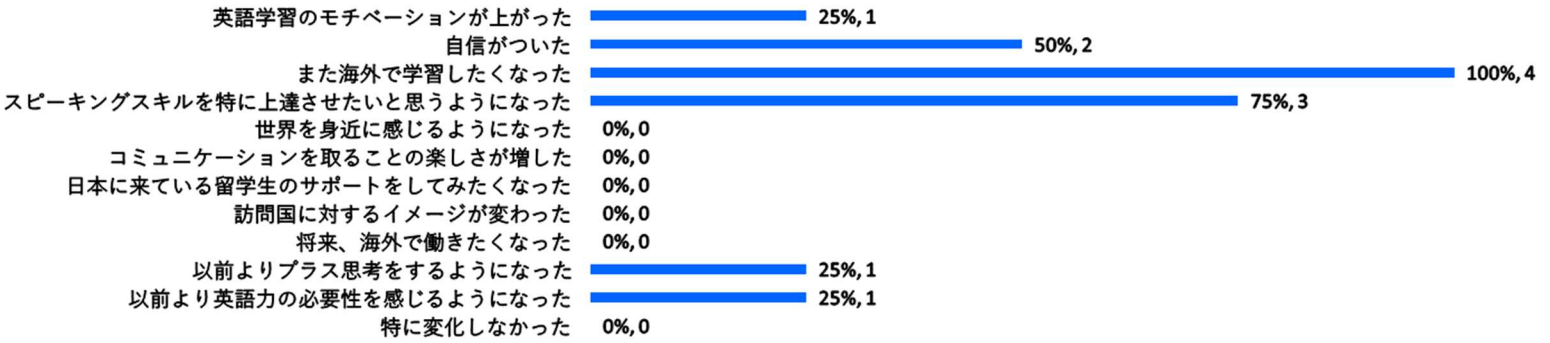
この研修で英語力のどのようなスキルが特に上達したと思いますか(複数回答可)

※4件の回答



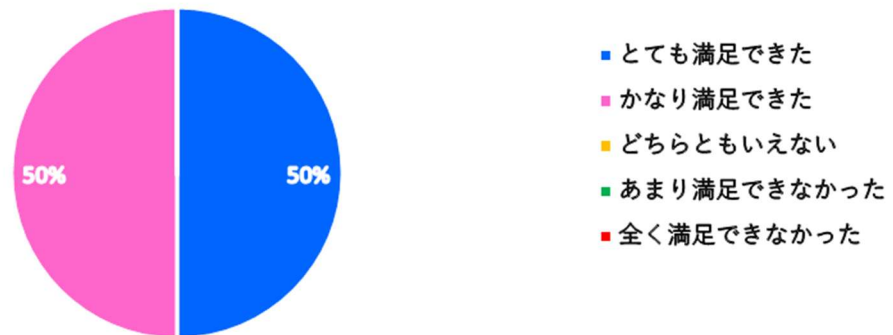
## この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか(複数回答可)

※4件の回答



## 研修プログラムは満足できましたか

※4件の回答



# 海外からの学生受入

2024年5月1日時点では29カ国から計214名の学生が、11月1日時点では32カ国から計271名の留学生在籍していました。

## 1. 交換留学

今年度の交換留学生数（2024年4月及び2024年10月留学開始）は以下のとおりでした。

国名・地域	大学名	受入学生数
英国	オックスフォード・ブルックス大学	1名
カンボジア	王立プノンペン大学	2名
中国	杭州電子科技大学	1名
	外交学院	3名
	西南交通大学	2名
ドイツ	オーム工科大学	1名
	ドレスデン工科大学	4名
フランス	リヨン第三大学	1名

## 2. 日本語・日本文化短期プログラム

例年、海外の交流協定校との関係を強化し、本学の国際化を推進することを目的として、日本語授業と日本文化体験で構成される日本語・日本文化研修プログラム実施しています。今年度は2025年1月12日（日）～22日（水）の11日間の日程で、中国・蘇州大学の学生計22名が参加しました。本プログラムは、日本語・日本文化体験を主な目的として実施したもので、日本語授業や和紙漉き体験のほか、松本や山中湖・河口湖エリアへの課外活動も実施しました。また、工学部の研究室や水素・燃料電池ナノ材料研究センターを見学する機会も提供しました。



日本語授業の様子



研究室訪問

# A3I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム(通称:A3I エースリーアイ)

## 大学の世界展開力強化事業 アジア高等教育共同体(仮称)形成促進キャンパスアジアプラスプログラム

本学では令和3年度文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」に「A<sup>3</sup>I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」を申請し、採択されました。(実施期間令和3年度～令和7年度)

以下は令和6年度における本プログラムの活動報告です。

### A<sup>3</sup>I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム

#### ー 活動の概要と令和6年度の取組状況 ー

## 1. 「A<sup>3</sup>I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」の概要

### 1.1 A<sup>3</sup>I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラムの背景と目的

文部科学省大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的とし、2011（平成23）年度から開始された。

令和3年度には「アジア高等教育共同体（仮称）形成促進」として、日中韓及びASEAN地域を中心としたアジア諸国との大学間連携による教育研究プログラムの公募が行われ、本学が申請した「A<sup>3</sup>I:アジア実問題解決駆動 AI 教育プログラム」が採択された。このプログラムでは、本学、杭州電子科技大学(中国)、釜慶大学校(韓国)、ペルリス大学(マレーシア)の4大学が連携し、各大学のAI研究・教育の強み、産業界との連携ネットワーク、および地域の実践フィールドを相補的に活用することで、AI国際産学連携の新たな教育モデルを確立し、アジア諸国との架け橋となり、Society5.0やDXを牽引するAI人材の育成を目的としている。

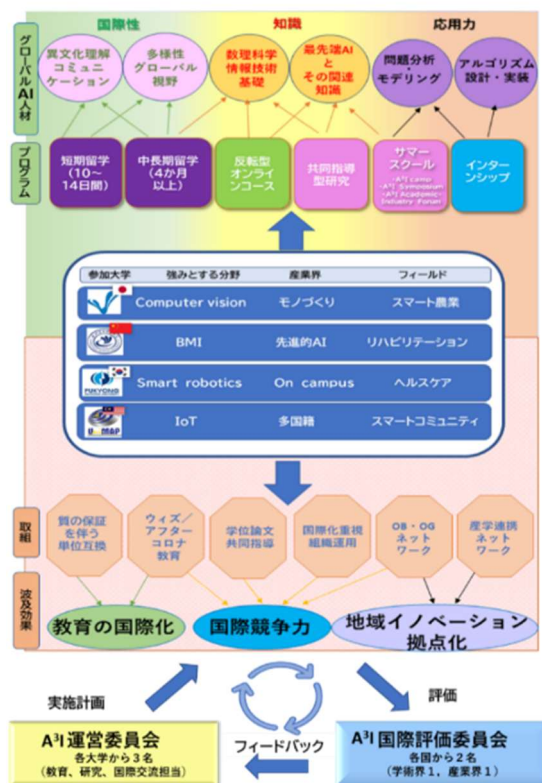


図1 本事業の概念図

## 1.2 人材養成目標とプログラム

日本とアジア諸国間の架け橋となって、Society 5.0 と DX を牽引できる AI 人材として、国際性、知識、応用力の3側面から、以下の6項目の素養と能力を有する人材の育成を目標とする。

### 1. 国際性

- ① 異なる言語や文化背景の人々と共に行動できる異文化理解・コミュニケーション能力
- ② 多様な価値観を尊重し、国際社会のニーズと枠組みを理解できるグローバルな視野

### 2. 知識

- ③ 強固な数理科学と情報技術の基礎
- ④ 最先端の AI 技術とその関連知識

### 3. 応用力

- ⑤ 分野を超えて各種の問題の本質を捉え、定式化するモデリング力
- ⑥ 問題に合わせて効率的なアルゴリズムを設計し、実装する力

以上を達成するために、多様なプログラムを提供する。具体的には、with/after コロナ時代に備え学年歴の差異を吸収した反転型オンラインコース、各国の文化に根ざし国際性を涵養する短期交流プログラム、各大学の特色ある研究・教育環境をフル活用できる長期留学、実問題解決を通して応用力を鍛えるハイブリッド型サマーキャンプ、共同研究成果と最新技術動向を共有する国際シンポジウム、産学連携を強化する産学連携フォーラム、各大学の産学連携ネットワークを活用したインターンシップ、さらに、質を伴った単位互換システムの構築により、豊かな国際性と確かな AI 技術・高度応用力を修得させるデュアル・ディグリープログラムである。毎年度140名以上の学生が参加し、5年間4カ国で計70名以上のデュアルディグリー修了生を育成する計画である。

## 2. 令和6年度の取組状況

令和6年度の学生交流プログラムでは、短期プログラムとして山梨大学で14名の学生を受け入れ、中国、韓国、マレーシアへ30名の学生を派遣した。また韓国の釜慶大学校ではサマースクールを開催し、山梨大学から5名の学生が参加した。中長期留学では日本から7名を派遣し、8名を受け入れた。オンラインでは山梨大学がホストとなり、2月にAIアプリケーションデザインに関するflipped classroomの授業を実施した。これらのプログラムを通して、学生は最新のAI技術の習得や異文化体験、国際コミュニケーション能力の向上などの成果を得た。また、教員間の連携や共同研究の推進にもつながった。

質の保証を伴った大学間交流形の枠組形成に向けて取り組みとして、学生は短期プログラムやサマースクール、オンラインコースなどの学生交流プログラムを通して、AI技術の習得や異文化体験、国際コミュニケーション能力の向上を図っている。各プログラムの質の保証のため、各プログラム終了後に参加学生へのアンケート調査を実施し、プログラムの評価や学生の能力向上について把握している。また、外部評価委員会を開催し、プログラム全体の評価を受けることで、PDCAサイクルを実践し、質の高い大学間学生交流プログラムを提供できるようなシステムを構築した。

教員間の交流や共同研究の推進により、各大学の学生の国際交流および研究環境がさらに充実することとなった。

### 2.1. 各プログラムの取り組み内容

#### 2.1.1 中長期留学

中長期派遣プログラムは、本事業の中でも重要な取組の一つであり、学生が数か月から1年の中長期海外留学を行う。中長期的に派遣先大学の教員の下で研究を行い、新たな知識やスキルを習得し、自分の専門分野について深く理解することができ、問題を多面的に分析する能力の涵養が期待できる。また、デュアル・ディグリープログラム参加学生は、派遣先大学の正規学生として学生生活を経験することができ、自身の学問領域だ

けでなく、留学先の学生との交流を通じて文化や社会についても深く学ぶことができ、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を強化する重要な機会となった。さらに、この留学経験を通じて、自分の強みや弱み、価値観や興味を再評価し、自己成長するとともに、異なる文化や教育環境での経験によりグローバルな視点を養うことができた。

以上のように、本プログラムは学術的な研究、異文化理解、自己成長、グローバルな視点の獲得といった多様な経験を学生に提供した。このような経験が学生の人生における重要な節目となり、彼らの将来のキャリアや人生観を形成するための基盤となることを期待する。

2024 年度の中長期留学の参加者数は次の通り：

- ・ University of Yamanashi (山梨大学) : 7 名
- ・ Hangzhou Dianzi University (杭州電子科技大学) : 5 名
- ・ Pukyong National University (釜慶大大学校) : 2 名
- ・ Universiti Malaysia Perlis (マレーシア・ペルリス大学) : 3 名



釜慶大大学校への留学



マレーシア・ペルリス大学にてサッカー場での AI 研究様子

### 2.1.2 短期学生交流 (ショートプログラム)

ショートプログラムでは、近年の学生の国際交流における心理的な壁を取り払うための第 1 歩として、学生が感じるハードルを下げ、海外へ踏み出す契機となるよう、各国の文化体験等で構成している。派遣先(本事業参加の各大学)の教員から直接授業が受けられ、現地の学生と交流することで新たな視点と知識を得ることができる絶好の機会であり、この体験を足掛かりに、海外や海外の大学に意識を向けるというマインドを養わせることとしていた。

2024 年度は夏季に韓国 PKNU、中国 HDU、日本 UY、春季に Unimap にてそれぞれショートプログラムを開催し、4 か国各国の文化体験、言語の講座、AI のワークショップ、ラボツアー、各国からの参加者が混在したグルーピングを行い、国際交流に関するディスカッションなどの活動を行った。4 か国併せて 75 名の学生が参加した。

ショートプログラムではコミュニケーション能力を鍛えるだけでなく、異文化理解を深め、それに対応する能力を身につけることや、新たな環境で様々な視点から世界を見て、感じることで、改めて自己の興味や価値観、強みや弱みについて深く考える機会を与えることで、学生の自己成長の促進の機会とした。

以上のように、ショートプログラムは学術的な学びだけでなく、異文化理解、コミュニケーションスキル、自己成長といった様々な面で学生に価値ある体験を提供した。参加学生にとっては、世界をより広く深く理解するための重要な一歩となった。



テコンドー体験



杭州西湖へのエクスカージョン



風呂敷体験



ラボツアー

### 2.1.3 インターンシップ

運営員会にて検討を行い、2024 年度中長期留学に参加した学生は、派遣先大学にてインターンシップの機会を提供することとし、各大学が企業と連携しインターンシップの機会を提供した。インターンシップではAIが実際の産業においてどのように活用されているかを学び、企業の研究者と AI の活用についてディスカッションを行い、実際に研究や制作の現場を体験した。

参加学生からは、私の研究だけでなく、将来にとっても有益なものであり職場環境を知る良い機会だったとの声が寄せられ、各国の企業や職場について知る機会を提供し、今後の進路や研究の方向性を改めて考えるきっかけを与えることが出来た。



### 2.1.4 反転型オンラインコース

2024 年 2 月に本学において、AI システムデザインに関するオンライン集中講座を開催し、4 大学から 19 名の学生が受講した。本講座は、各大学の学年暦の違いに影響がなく、学習効果を高めること、自国にいながら海外の大学から最先端の AI 理論や応用技術を学ぶことができ、グループディスカッションを通じて理解を深めることを目的として実施した。

また、デザイン思考の第一人者である台湾のシナリオ・ラボ創設者兼 R&D ディレクターの Der-Jang Yu 博士を講師に招き、「デザイン思考とシナリオ指向の共同デザイン」と題した特別講義を行った。授業では、「差別化」の課題を見つけるフィールドワークが課され、各国の学生で構成されたチームごとに、授業で学んだアプ

ローチを活用して、その課題を解決するための AI 技術を考案した。本講座は、デザイン思考の実践方法を学ぶ貴重な機会となった。

この科目の単位は、4 大学において認定を受けることができる仕組みを構築した。

### 2.1.5 サマースクール

2024 年 8 月韓国 PKNU にて開催された。研究室訪問や企業訪問を通して、AI が実際にどのように実問題解決に役立てられているかについて実際に触れ、体験した。また最新の深層学習及び応用技術に関する講義、AI による実問題解決プロジェクトを実施した。4 大学の学生が混合チームを編成し問題分析、アルゴリズムデザイン、プログラム実装を実践した。各大学から 17 名の学生が参加した。

参加学生にとって非常に有意義なプログラムとなり、AI 技術とその応用に対する理解を深める機会となった。また、本学内に向けてもオンライン配信を行ったため、教職員にとっても AI の最新動向に触れるよい経験となった。



企業訪問



研究プロジェクトの発表

## 2.2 教職員の交流

### 2.2.1 マレーシア・ペルリス大学 (Unimap) の教員が来学

2024 年 7 月 4 日 (木)、本学交流協定校のマレーシア・ペルリス大学 (Unimap) より Zaliman Sauli 学長、Rozyanty Rahman 准教授、Latifah Munirah Kamarudin 准教授が来学した。

本学、工学部とのデュアル・ディグリープログラムに関する協定の調印を行った。その他に、デュアル・ディグリープログラムについてのディスカッションや学生とのミーティングを行い、有意義な学術交流となった。

### 2.2.2 山梨大学の教職員中国訪問

2026 年 3 月に、本学の茅 暁陽理事と国際化推進センター・布村猛助教が本学交流協定校の中国・杭州電子科技大学 (HDU) を訪問した。

今回の訪問では、杭州電子科技大学計算機学院国際交流担当余宙副学院長と面談し、ディグリープログラムの課題を共有、今後の対応方法について検討を行った。また、ショートプログラムで本学から学生を派遣する候補地を訪問した。今後の両行の更なる交流促進のきっかけとすることができた。

## 2.3 交流プログラムの質の向上のための評価体制 運営委員会の開催

2024 年度は運営委員会を 1 回、成果報告会を 1 回行った。運営委員会では外部評価委員会の評価結果の確認と課題の共有を行った。また、同窓会の設立の検討を行った。その他には、インターンシップ・ショートプログラム・サマースクールのスケジュールの確認を行った。さらに、中長期留学に関する単位互換、オンライン授業について議論を交わした。

成果報告会では、4 年間の事業を振り返り、各大学の活動や派遣・受入れ状況を報告し合い、引き続き事業を

促進していくことを確認した。

### 2.3.1 外部評価委員会の開催

2024 年度のすべての取組が終わるタイミングである 3 月に予定を変更し、第 3 回国際外部評価委員会評価をいただいた。各国から学术界、産業界の AI 分野最先端にて活躍される有識者 8 名を委員として招き、本プログラムの実施状況と今後の方向性において、意見を頂いた。

外部評価委員会を開催し、産業界、学术界の有識者から本プログラムの内容と運用について貴重な意見を頂くことが出来た。特に産業界との連携やプログラムの評価について大切な観点を各委員から指摘いただき、これらを次年度以降のプログラム改善に活かす予定である。

### 2.3.2 山梨大学 1 期生が DD 学位を取得

A3I プログラム第 2 期生の学生 2 名が、デュアル・ディグリープログラムを修了し、本学及び韓国釜慶大学の両大学からの学位を取得し、卒業した。学生らは修士 1 年次（2023 年）に釜慶大学校へ中長期留学をし、その後 2 年間という限られた期間の中、各種プログラムや授業への参加、研究活動に全力で取り組みデュアルディグリーの取得をした。

## 3. 今後の展望

初年度に構築したプログラム運営の基礎を基に、前年度に引き続き、各大学の強みを踏まえ、反転型オンラインコースの実施、A3I 運営委員会を開催し、夏の短期（派遣・受入）プログラム、サマースクール及び長期（派遣・受入）プログラムの実施、サマースクール、インターンシップを開催してきた。今後もさらにこのプログラムを推進し、DD 取得のための派遣者受入者数を増やしすべく、2025 年度も引き続き学生交流を中心に行っていく。

最終年度となるため、このプログラム内容について、再度検証し、今後の自走でのプログラム運営に向けての検討も引き続き A3I 運営委員会にて検討を行っていくこととしている。また、A3I 国際評価委員会の評価結果を踏まえた今後の取組について検討し、必要に応じて改善を行う。

これまでの達成された成果により、2025 年度は、さらに本格的に各学生交流プログラム遂行を行っていく。今後も、学生たちにとって最高の学習体験を提供するために、一層の努力を続けていく。

## III. 日本語教育・留学生サポート事業

---

留学生のための日本語教育および修学・生活上の指導・相談、外国人留学生向けイベントなどの外国人留学生支援にも力を注いでいます。

# 日本語教育

## 1. 日本語 Intensive コース

国際化推進センターにて開講している日本語 Intensive コースについて、年次報告にて報告します。

### 2024 年度 日本語 Intensive コースの報告

布村 猛

#### 1. 日本語 Intensive コースの概要

国際化推進センターで提供している日本語 Intensive コースには、「日本語 Intensive 入門 I」、「日本語 Intensive 入門 II」、「日本語 Intensive 初級」の3つの授業がある。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、英語コース所属の大学院生、そして交流協定大学からの交換留学生を受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。「日本語 Intensive 入門」コースは「大学院や教員研修などの勉学生活に入るために基礎的な日本語力の習得をめざす」ことを目標としており、「日本語 intensive 初級」コースは「大学・日常生活を円滑に送るため、入門コースで学んだ知識を運用に結びつけ、読む・書く・聴く・話す、の四技能においてコミュニケーション力を中級レベルへ高めること」を目指している。いずれのコースも指導教員の許可を得た私費留学の研究生、そして交流協定大学からの交換留学生も受講生として受入れている。単位取得を必要とする交換留学生に関しては、必要要件を満たしコースを修了した者には単位認定を行っている。これらのコースは言語のみならず、文化、そして地域社会について学べる環境を提供しつつ、日本や山梨のよき理解者へと育成することを目指している。

#### 2. 2024 年度 前期 日本語 Intensive コース

##### 2.1. 前期 日本語 Intensive 入門 I (週 6 コマ)

授業は、週 2 回、合計 6 コマの頻度で行われた。6 コマのうち 4 コマは新出文法や単語に焦点を当てた授業であり、基礎力の定着を図った。残りの 2 コマは、漢字学習とプレゼンテーションの授業に充てられた。プレゼンテーションでは、受講生が自身（主に博士課程）で行う研究内容や、自身の専門分野に関連する関心事について発表を行った。内容は科学的なトピックを含むため複雑であったが、受講生は図やグラフを効果的に用い、スライド作成に工夫を凝らしていた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『みんなの日本語初級 I 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級 I 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』

：『みんなの日本語初級 I 第 2 版 標準問題集』（いずれもスリーエーネットワーク）

##### 2.2. 前期 日本語 Intensive 入門 II (週 6 コマ)

授業は、週 1 回（各回 3 コマ）の形式で実施された。3 コマのうち 2 コマは新出文法・単語の学習に、残りの 1 コマは漢字学習とプレゼンテーションの準備・実践に割り当てられた。入門 I で習得した基礎知識を確実に定着させ、運用力を高めることを目指した。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『みんなの日本語初級 II 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級 II 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』

: 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 標準問題集』 (いずれもスリーエーネットワーク)

### 2.3. 前期 日本語 Intensive 初級 (週5コマ)

授業は、週3回、合計5コマの頻度で行われた。5コマのうち2コマは新出文法や会話表現の学習に充てられた。残りの3コマは、2コマを読解、1コマをプレゼンテーションの授業とし、中級レベルへの橋渡しとして、インプットとアウトプットのバランスを重視した。本授業の最大の特徴は、受講生が自身の研究や専門分野について日本語でプレゼンテーションを行う点にある。これは、一般的な日本語教育課程よりも早い段階で、自身の専門分野で使用される語彙を学び、使用可能とすることを目的としている。これにより、所属する研究室でのコミュニケーションの円滑化や、将来日本で就職活動を行う際の専門的な対話能力の向上が期待される。2024年度前期は、「カンボジアにおける日本語教育の実態」や「色覚異常を持つ人へのスマートグラスを用いた補助」といった、受講生の専門性に根差したテーマでの発表が行われた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材: 『Weekly J: 日本語で話す6週間』 (凡人社)

: 『改訂版 日本語中級 J301 -中級前期-』 (スリーエーネットワーク)

## 3. 2024年度 後期 日本語 Intensive コース

### 3.1. 後期 日本語 Intensive 入門Ⅰ (週6コマ)

授業は、週2回 (各回3コマ)、合計6コマの頻度で行われた。6コマのうち4コマは新出文法・単語の学習に焦点を当てた。残りの2コマは、1コマを漢字学習、もう1コマを作文や会話表現の演習に充てた。

授業では、新規語彙・文法項目の導入と口頭練習を中心に行い、応用問題は課題とした。受講生は熱心に予習・復習や作文課題に取り組み、各課の学習後にはできる限り受講生同士の対話の時間を設け、場面に応じた発話能力を養うよう促した。定期的なテストでは、言語知識だけでなく、場面設定に基づいた会話運用能力も評価対象とした。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材: 『改訂版 聞く・考える・話す留学生のための初級日本語会話』

『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』

副教材: 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 書いて覚える文型練習帳』

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 標準問題集』 (いずれもスリーエーネットワーク)

### 3.2. 後期 日本語 Intensive 入門Ⅱ (週6コマ)

授業は、週2回 (各回3コマ)、合計6コマの構成で実施された。4コマは新出文法・単語の学習、残りの2コマは漢字学習とプレゼンテーションに割り当てられた。今年度より、『みんなに日本語』シリーズに加えて、『いろどり』を授業の中で活用した。『いろどり』は国際交流基金が発行した日本語の聴解と会話に重点をおいた入門レベルの教材で、「生活の中で使える表現を学びたい」という学生のニーズに応えるために導入されたものである。『みんなの日本語』は日本語を使用する上で必要となる表現が網羅的に学べるようにデザインされている一方で、そのような表現を知識として取り入れることに重点を置いており、生活のどのような場面でどの用にその表現が使用されるかということに関する指導は重視されてこなかった。今回『いろどり』を導入することで、『みんなの日本語』で学んだいわゆる「文法知識」を、実際の生活場面で使用することができる「会話表現」として昇華することが可能となり、学生も自信に日本語力が向上していることを体験できるような機会を提供できた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 本冊』

副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 書いて覚える文型練習帳』

：『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 標準問題集』（いずれもスリーエーネットワーク）

：『いろどり 生活の日本語』（国際交流基金）

### 3.3. 後期 日本語 Intensive 初級（週5コマ）

授業は、週3回、合計5コマの頻度で実施された。2コマを新出文法・会話表現、3コマを読解（2コマ）とプレゼンテーション（1コマ）に充てた。

本授業の目的は前期と同様に、専門分野に関する日本語運用能力の早期習得にある。研究室でのコミュニケーションや、将来的なキャリア形成を見据え、専門語彙の習得をサポートした。

2024年度後期は、「日本語教育におけるアニメの活用法」や「発達障害への適切な支援策」といった、現代社会の課題や教育に関する多様なテーマで発表が行われた。

使用した教材は以下のとおりである。

主教材：『Weekly J:日本語で話す6週間』（凡人社）

：『改訂版日本語中級 J301 -中級前期-』（スリーエーネットワーク）

## 4. まとめ

2024年度も、山梨大学内における日本語教育のニーズは多様化している傾向が続いた。特に Intensive コースの受講生は、英語コース所属の大学院生や研究生が中心であり、必ずしも研究活動（論文執筆など）で日本語を必須としない学生が増えている。こうした背景から、大学内で求められる日本語能力も、従来の「アカデミック・ライティング能力」から、「研究室や日常生活における円滑な口頭コミュニケーション能力」へと重点が移行している。2024年度のコース運営においても、このようなニーズの変化に対応する必要性を再確認した。今後のプログラムにおいても、アカデミックな日本語習得の基礎となる語彙や文型指導は維持しつつ、単純なパターンプラクティスを減らし、具体的な使用場面を意識したコミュニカティブな練習を一層取り入れることが求められる。今回 intensive 入門2で試験的に導入した『いろどり』はまさにこのような課題を解決するものであり、今後は入門レベル全体での活用方法を検討していく。また、特に初級コースで実践しているプレゼンテーション活動は、受講生の専門領域に関連する語彙習得を促す上で引き続き有効であり、今後も継続・発展させていく。

## 2. 日本語補講

日本語補講は、国際化推進センターが提供する授業科目以外の日本語教室です。主として大学院生や研究生を対象とし、研究者またはその家族にも開かれたプログラムとなっています。実施状況について国際化推進センター江崎哲也教授の年次報告にて報告します。

### 日本語補講

江崎 哲也

#### 1. 留学生を取り巻く状況と、本学の日本語教育

国際化推進センターでは、2024年度は表1に示すように、(1)学部留学生向け日本語科目を年間12コマ、(2)Intensive日本語コースを年間34コマ、(3)日中研究が忙しくてそれらの授業に出られない大学院生や研究生のためにV時限(16時30分～)以降に日本語補講を年間12コマ開講した。これららの授業・補講の実施は、留学生が入学後速やかに日本語運用能力を高め、専門分野の学修・研究を円滑に遂行できるよう支援することを目的としている。特に、レベル別クラスを設けることにより、多様な学習背景を持つ学生一人ひとりに対応した効果的な指導を実現している。本取り組みは、本学の第4期中期目標・中期計画に掲げられた「国際教育の質的向上」および「留学生受け入れ数値目標の達成」に直接的に貢献するものである。また、文部科学省が推進する\*\*「ポスト留学生30万人計画」\*\*を見据え、学内での日本語教育体制を強化し、留学生の日本語能力向上を通じて日本国内での就職・定着を支援するという国の方針にも整合している。

表1 国際化推進センター開講科目一覧(日本語科目・日本語補講のみ)

開講科目	コマ数/年度	受講開始時のおおよその日本語レベル * JLPT: 日本語能力試験	出席が必要な コマ数
(1) 学部留学生向け日本語科目	12 (4レベル)	JLPT N2 以上 (日本語学習歴 600 時間以上)	1~2 コマ/週
(2) Intensive 日本語コース	34 (3レベル)	入門期から JLPT N4	5~6 コマ/週
(3) 日本語補講	12 (6レベル) ただし授業回は 12回	入門期から JLPT N5 (両キャンパス) JLPT N3 (主に甲府キャンパスの学生) JLPT N2 (主に医学部キャンパスの学生)	1~2 コマ/週

#### 2. 日本語補講の完全オンライン化に伴うスリム化

2020年度は昨今の留学生施策を鑑み、2020年度はそれ以前に比し2コマ増の計16コマ相当の時間を日本語補講としてオンラインで開講してきた(表2参照)。しかしながら、オンラインであっても十分学習効果が得られることが確認できたため、2021年度以降は表3に示す通り、基本的には所属キャンパスの区別をなくし、6レベル6クラスを開講し、それぞれ前期・後期ごとに週1回12週にわたって展開された。なお、この日本語補講は、単位認定の対象にはならず、席が用意できる限りは、留学生の家族、研究者・研究員にも受講を認めている。

表2 「日本語補講」一覧 2020年度

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける 総学習時間
甲府	K-A (入門1)	前期・後期	0-25 時間	18 時間 (90 分×12 回)

	K-B (入門 2)	前期・後期	15-50 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-C (初級 1)	前期・後期	35-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-D (初級 2)	前期・後期	50-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-E (論文作成・口頭発表)	前期・後期	450 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)
医学部	M-A (入門)	前期・後期	0-25 時間	12 時間 (60 分×12 回)
	M-B (初級)	前期・後期	15-50 時間	12 時間 (60 分×12 回)
	M-C (初中級)	前期・後期	35-100 時間	12 時間 (60 分×12 回)
	M-E (論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)

表 3 「日本語補講」一覧 2021 年度以降

キャンパス	クラス名	開講学期	対象レベル (日本語学習歴)	クラスにおける 総学習時間
甲府 / 医学部	K-A (入門 1)	前期・後期	0-25 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-B (入門 2)	前期・後期	15-50 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-C (初級 1)	前期・後期	35-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-D (初級 2)	前期・後期	50-100 時間	18 時間 (90 分×12 回)
	K-E (論文作成・口頭発表)	前期・後期	450 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)
	M-E (論文指導・医療の日本語)	前期・後期	600 時間以上	18 時間 (90 分×12 回)

### 3. 2024 年度前期

2024 年度前期の開講クラス、及び申し込み者数は以下の表の通りである。

表 4 2024 年度前期各クラス申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門 1	11	『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』 第 1 課～第 9 課
入門 2	7	『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』 第 10 課～第 18 課
初級 1	11	『いろどり 生活の日本語 初級 1 (A2)』 第 1 課～第 9 課
初級 2	10	『いろどり 生活の日本語 初級 1 (A2)』 第 10 課～第 18 課
論文作成・ 口頭発表	7	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・ 医療の日本語	0	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

### 4. 2024 年度後期

2024 年度後期の開講クラス、及び申し込み者数は以下の表の通りである。

表 5 2024 年度後期各クラス申し込み者数と使用テキスト

クラス名	申し込み者数	使用テキスト/内容
入門 1	33	『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』 第 1 課～第 9 課
入門 2	35	『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』 第 10 課～第 18 課

初級1	16	『いろいろ 生活の日本語 初級1 (A2)』 第1課～第9課
初級2	14	『いろいろ 生活の日本語 初級1 (A2)』 第10課～第18課
論文作成・ 口頭発表	8	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習
論文指導・ 医療の日本語	0	レポート・論文の作成に必要な表現の学習、口頭発表の練習、医療関連の日本語指導

## 5. 入門クラス等における使用教材の変更

これまで「入門1」から「初級2」のクラスにおいては、『まるごと 日本のことばと文化 入門A1 かつどう』および『まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 かつどう』を使用してきた。しかし、学習者の多様化および実生活に即した日本語運用能力へのニーズの高まりを踏まえ、2024年度からは新たに『いろいろ 生活の日本語 入門 (A1)』および『いろいろ 生活の日本語 初級1 (A2)』を採用した。これにより、留学生が日本での生活や大学での学修場面において必要とされる実践的な日本語をより効果的に学習できる環境を整備した。今後も教材内容と学習目的の整合性を検証しながら、教育効果の一層の向上を図っていく予定である。

## 6. 申し込み者数の変化と申し込み方法の変更

表6に2014年度から2024年度の日本語補講の申し込み者数の推移を示す。2014年度までは甲府キャンパスで3クラス、医学部キャンパスで5クラスの日本語補講を開講していたが、医学部キャンパスの1クラス当たりの平均申し込み者数が甲府キャンパスを下回ったため、2015年度から両キャンパスとも4クラスとした。また、2015年度後期からは各キャンパスの受講者のニーズにより適合したテキストに変更し、入門期から初級までの連続性があるクラスを開講した。さらに、2019年度後期に大学院の留学生が急増したことを受け、申し込み方法をweb申し込みに変更した。これらによって、2019年度後期には日本語補講の申し込み者数が89人に上った。前述のように2020年度は甲府キャンパスのコマ数が2つ増加したため、申込者の増加が見込まれたが、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大したために、進学をあきらめざるを得ない学生もいたことから、後期は減少に転じた。2021年度についてはさらに受講者数が減少したが2022年度は申込者数が増加に転じた。これは「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」が非常に充実したものであり<sup>1</sup>、本学進学前の受講生にも広く開放したため一時的に申込者数が減ったものの、2022年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響が多少弱まり、留学生数が増加し、ウクライナ在住のハルキウ国立教育大学の学生にも開放したためだと思われる。

表6 日本語補講の申し込み者数の推移

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
甲府 キャン パス	18	12	13	17	17	32	15	15	15	40	28	81	52	46	45	28	53	54	37	56	46	106

<sup>1</sup> この「夏季/春季休暇 Intensive 日本語コース」は修了時に JLPT N4 程度まで日本語力を伸ばすものであるため、日本語補講 K・A～K・D レベルを遥かに超える力が身につく。そのため、受講者数が大幅に減ったと考えられる。

医 学 部 キャン パス	11	16	13	14	14	14	6	6	6	9	18	9	12	12								
合計	29	28	26	31	31	46	37	57	21	49	46	89	64	58	45	28	53	54	37	56	46	106
甲府 3 クラス→	→甲府 4 クラス																					
医学部 5 クラス→	→医学部 4 クラス																		→統合。学部の違いなし			
学部間共通テキスト→	→学部により異なるテキスト										→共通テキスト											
												→Web 申し込み										

## 7. まとめと今後の課題

2015 年度から 2021 年度にかけて、日本語補講について以下の五つの大幅な改革を実施した。

- ①受講希望者のニーズに応じた両キャンパスにおけるクラス数の見直し、
  - ②使用教材の変更、
  - ③各クラス間のレベル連続性の確立、
  - ④申し込み方法の紙媒体から Web 方式への移行、
  - ⑤授業のオンライン化およびスリム化、
- である。

これらの改革に加え、大学院留学生数の増加も相まって、日本語補講の申込者数は概ね増加傾向を示してきた。2021 年度には一時的な減少が見られたものの、2022 年度には再び増加に転じ、2024 年度には前年度比で 60% 以上の増加となった。

また、受講生の日本語力向上を図るため、G-フィロス（本学グローバル共創学習室）の「日本語サポート」を活用した実践的な練習を宿題として課すなど、学習効果の一層の向上に努めている。

日本語補講の受講者の多くは英語で研究を行う大学院生であるが、生活に必要な日本語の習得や、大学院授業を日本語で受講することを希望しており、一部には日本での就職を志向する者も見られる。今後も引き続き日本語補講の充実を図り、大学院生や研究生等の日本語運用能力の向上を支援することにより、彼らの研究活動および大学生活の充実に寄与していく予定である。

### 3. 日本語・国際共修科目

国際化推進センターでは、主に学部留学生を対象として、日本語・国際共修科目も開講しています。国際化推進センター江崎哲也教授の年次報告にて報告します。

#### 日本語・国際共修科目

江崎 哲也

主に学部留学生を対象として開講されている、国際化推進センターが提供する全学共通教育科目の日本語・国際共修科目について 2024 年度の報告を行う。

#### 1. 開講科目

2024 年度開講の日本語・国際共修科目は以下の通りである。科目名の I は前期、II は後期開講であることを指す。

##### 前期（計 10 科目）

日本語初中級 I A、日本語初中級 I B、日本語中級 I B、日本語中上級 I、日本語上級 I、ビジネス日本語、日本事情 I、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、Intercultural Understanding through Images

##### 後期（計 8 科目）

日本語初中級 II A、日本語初中級 II B、日本語中級 II A、日本語中上級 II、日本語上級 II、日本語 LR 日本事情 II、世界の中の日本 (Japanese Society from an International Perspective)

クラス分けは、前期・後期の履修申告の直前に行われたプレイスメント・テストの結果に基づいて行った。レベルは初中級、中級、中上級、上級の 4 レベルとし、ビジネス日本語と日本語 LR は中級以上の学生を対象とした（図 1）。

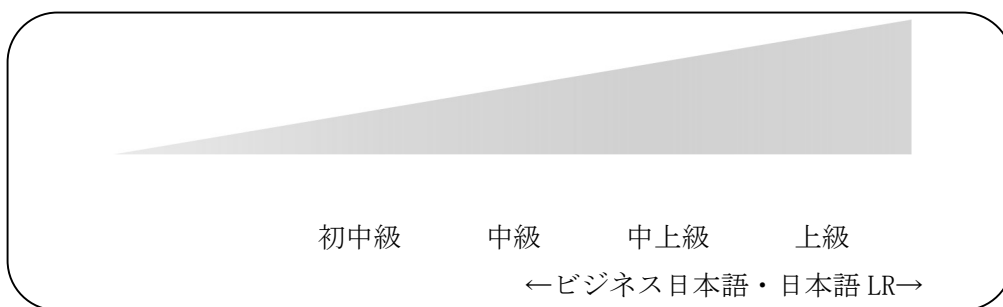


図 1 日本語のレベル

各科目の受講生の学年、身分の内訳は、表 1 の通りである。なお、表中の NNS とは留学生、及び日本語を母語としない（あるいは日本語を第一言語としない）学生を指し、NS とは日本語を母語とする（あるいは日本語を第一言語とする）学生を指す。

表1 2024年度 日本語・国際共修科目の受講生<sup>2</sup>

	前期/ 後期	担当		受講生 総数	山梨県立 大学の 学生	梨大の学生						XHPV im eni G.C. Skovor odn	G-フィロスを利用 して課題を提出す るよう促した課題 の数	
						1年	2年	3年	4年	交換生・ 日研生	院生			研究生・ 教員研修 生等
初中級ⅠA	前	仲本	NNS	6	1	2		1		1	1			3
初中級ⅡA	後	伊藤	NNS	5	1	3				1				8
初中級ⅠB	前	江崎	NNS	7	2	2		1		1	1			10
初中級ⅡB	後	江崎	NNS	2	1				1					5
中級ⅡA	後	井上	NNS	9	3	1	1	1		2	1			10
中級ⅠB	前	伊藤	NNS	11	3	1	1	1		2	3			8
中上級Ⅰ	前	江崎	NNS	9		1	2			6				8
中上級Ⅱ	後	仲本	NNS	11	3	1	1			6				3
上級Ⅰ	前	江崎	NNS	8	1	1	3			3				6
上級Ⅱ	後	江崎	NNS	12	3		4	1		3		1		3
ビジネス日本語	前	伊藤	NNS	9		2				7				
日本語LR	後	布村	NNS	13	3		1			6	2	1		2
日本事情Ⅰ	前	伊藤	NNS	12	4			1		7				
			NS	28		24	3	1						
日本事情Ⅱ	後	伊藤	NNS	9	4		1		1	3				
			NS	25		20	5							
Language & Communication across Cultures	前	奥村	NNS	13		1	1		1	6		4	2	
			NS	14		14								2
グローバルヘルス入門	前	宮本	NNS	0										
			NS	42		39		2	1					
Health System and Well-being in the World	前	宮本	NNS	4		1	1			2				
			NS	21		18	2	1						
Japanese Society from an International Perspective (世界の中の日本)	後	布村	NNS	14	2					11	1			
			NS	1			1							
Intercultural Understanding through Images	前	奥村 布村 ほか	NNS	8				1	1	6				2
			NS	19		18	1							2

表2に、日本語科目および国際共修科目の受講生数の推移を示す。日本語科目（初中級・中級・中上級・上級・ビジネス日本語・日本語LR）の受講生数（延べ人数）は、2014年度から2019年度まで増減を繰り返していたが、2020年度および2021年度には新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少した。しかし、2022年度には新規開講科目「ビジネス日本語」および「日本語LR」の設置により受講生数が大幅に増加した。2023年度は一部科目の非開講に伴い一時的な減少が見られたものの、2024年度には再び増加に転じた。研究生や大学院生の中には、日本での就職を見据えて日本語力を高めようと積極的に授業に参加する姿も見られる。

一方、国際共修科目（日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、世界の中の日本、Intercultural Understanding through Images）は、2014年度から2019年度まで受講者数が増減を繰り返したが、2020年度には減少傾向を示した。その後、2021年度は190人、2022年度169人、2023年度173人、2024年度210人となり、特に日本語を母語とする学生の受講者数が増加した。これらの科目は授業の性質上、受講者数の上限を定めているが、今後も共修授業への関心を高め、学生の異文化理解力を育成するよう努めていく。

なお、表1の右から2列目は、ウクライナに対する人道的支援の一環として、ハルキウ国立教育大学（H.S. Skovoroda Kharkiv National Pedagogical University）の学生に「Language & Communication across Cultures」を開放し、4名の受講者があったことを示している。また、表2の右端の数値は、各科目において本学のG-フィロス（グローバル共創学習室）の日本語学習サポートまたは英語学習サポートを活用し、課題提出に結びつけた

<sup>2</sup>ここでいう受講生は、単位取得希望学生（学部生・交換留学生）以外の、大学院生や研究生なども含めている。

回数を示している。いずれの科目においても、Student Assistant (SA) とのコミュニケーションを積極的に促すことで、学習意欲の向上や学習内容の定着に努めている。

表2 日本語・国際共修科目の受講生数の推移

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語科目 (NNS)	74	39	57	41	62	60	72	56	57	48	72	56	73	59	65	33	88	85	69	40	48	54
国際共修科目 (NNS)	19	24	19	24	19	23	21	29	58	21	28	33	28	22	34	24	32	44	36	10	37	23
国際共修科目 (NS)	65	55	33	48	35	49	42	49	51	53	41	40	44	39	102	30	59	34	106	21	124	26
合計	158	118	109	113	116	132	135	134	166	122	141	129	145	120	201	87	179	163	115	71	209	103

## 2. 2024年度の開講記録

各科目は、以下のような目的・内容で教室活動が行われた（表3参照）。

表3 日本語・国際共修科目の概要

授業タイトル (主な内容)	担当	主な使用テキスト、参考書	内容				
			読む	書く	聞く	話す	文法
初中級ⅠA (会話と文法)	仲本	『J.Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	△	◎	◎	○
初中級ⅡA (文法の復習と会話)	伊藤	『J.Bridge to Intermediate Japanese』(凡人社)	△	○	◎	◎	○
初中級ⅠB (作文)	江崎	『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』(アルク)	△	◎	△	△	○
初中級ⅡB (少し専門的な文章の読み方)	江崎	『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』(アルク)	◎	△	△	△	○
中級ⅡA (読解、意見のまとめ方)	井上	『中・上級日本語教科書 日本への招待 テキスト』 (東京大学出版会; 第2版)	◎	○	△	○	○
中級ⅠB (場面や相手に沿った適切な話し方)	伊藤	『日本語上級話者への道—きちんと伝える技術と表現』 (スリーエーネットワーク)	△	○	◎	◎	○

中上級 I (会話・聴解・発表)	江崎	『中上級学習者のための日本語会話』 (スリーエーネットワーク)	△	△	◎	◎	△
中上級 II (論理的な文章の書き方)	仲本	・『大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』 (アルク)	○	◎	△	△	○
上級 I (レポート・論文の書き方)	江崎	『論文ワークブック』 (くろしお出版)	△	◎	△	△	○
上級 II (発表のし方と、新聞記事などの資料の読み方)	江崎	『トピックによる日本語総合演習 上級』、『トピックによる日本語総合演習 上級用資料集』 (スリーエーネットワーク)	○	○	◎	◎	△
ビジネス日本語 (ビジネス場面の会話、メールなど)	伊藤	『ビジネス日本語 : オフィスで使える!マナーも身につく!テキスト1 改訂版』 (日建学院)	○	○	◎	◎	△
日本語 LR (JLPT N1 レベルへの到達を目指した読解演習)	布村	『新完全マスター読解日本語能力試験 N1』 (スリーエーネットワーク)	◎	△	△	△	○
日本事情 I	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』 (大和書房)	日本人の学生と一緒に、日本の文化や日本事情を勉強する授業。文化や社会について学びながら、日本語力を伸ばす。テーマに基づくグループディスカッションを行い、各国・地域や家庭の習慣、文化について紹介しあう。 (I と II は別内容)				
日本事情 II	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』 (大和書房)					
Language & Communication across Cultures	奥村	- (授業内指示、自主作成教材)	This class aims to equip students to understand the role of language and communication across cultures highlighting the importance of intercultural communication and language. In the class consisting of both international and Japanese students, all the interactive activities are conducted in English.				
グローバルヘルス入門	宮本	- (授業内指示、自主作成教材)	「グローバルヘルス」とは世界に広がる「容認できない健康格差」を是正するための様々な取り組みを指し、「健康」という視点で日本語を母語とする学生と一緒に世界の課				

			題を考える。
Health System and Well-being in the World	宮本	- (授業内指示、自主作成教材)	Purpose of the lecture: 1) Students will be interested in the health systems in the world; 2) Students will be interested in the social well-being in the world; 3) Students will think about diversity of system and how to reduce health disparities.
世界の中の日本 (Japanese Society from an International Perspective)	布村	- (授業内指示、自主作成教材)	This course aims to enable students to understand contemporary Japanese society, including its minute details, by examining social issues from multiple sociological and anthropological perspectives.
Intercultural Understanding through Images	奥村 布村 ほか	- (授業内指示、自主作成教材)	Both International & Japanese students are given an opportunity to reflect on their own cultures and gain an understanding of other cultures through visual materials or visits. Conducted in English.

\*「内容」の項目の記号は、◎：よく勉強する(よく取り上げる/扱う)、○：勉強する(取り上げる/扱う)  
△：あまり勉強しない(あまり取り上げない/扱わない) ということを表す。

### 3. まとめと今後の課題

2024年度の日本語科目における日本語非母語話者の総受講生数は102名であり、前年度と同水準であった。国際共修科目(日本事情、Language & Communication across Cultures、グローバルヘルス入門、Health System and Well-being in the World、世界の中の日本、Intercultural Understanding through Images)については、日本語非母語話者・日本語母語話者の双方から多数の履修が見られた。入学当初から異文化やグローバルな課題に関心を持ち、相互理解を深めることができるよう、これらの科目の履修の重要性を引き続き学生に周知していくことが重要である。今後も共修型授業を通して学生の異文化理解力を育成し、学内の国際化の一層の推進を図っていく。

また、日本語科目においては、2024年度も引き続きG-フィロス(グローバル共創学習室)の活用を強く推奨し、課題の一部をG-フィロスで実施する仕組みを導入した。これにより、日本語学習時間の確保が促進されるとともに、Student Assistant(SA)と日本語を母語としない学生との交流が活発化し、学習意欲の向上および支援体制の充実に寄与したと考えられる。

今後も、授業と学習支援の有機的な連携を図りながら、留学生・日本語非母語話者の日本語運用能力のさらなる向上を目指すとともに、共修教育を通じて国際教育の質的向上に取り組んでいく。

# 留学生サポート

## 1. 留学生支援・相談、文化交流

国際化推進センターでは、留学生の生活・就学に関する相談・指導を行うだけでなく、文化体験・交流や講演会等、留学生にとって有益な行事等を提供することによって、留学生が日本での生活に馴染み、学業に取り組める環境を整えるための支援も行っています。これら留学生支援・相談、文化交流について、国際化推進センター伊藤孝恵教授の年次報告にて、報告します。

### 留学生支援・相談、文化交流について

伊藤 孝恵

#### I. 指導・相談

山梨大学における留学生のための相談体制として、国際化推進センターに留学生相談室が設置されているほか、国際化推進センターの各教員がそれぞれオフィス・アワーを設けている。国際化推進センターでは、留学生のみならず、海外留学や国際交流、G-フィロスに関心のある学生や、日本語教育に関する相談で訪れる学生にも対応している。

本稿では、そのうち、2024年度に留学生相談室で対応した主だった指導・相談、及び国際化推進センターや教学支援部の一部支援行事や交流行事について報告する。

#### 1. 生活、修学、進路・就職相談

留学生相談担当の教員が「山梨留学生就職促進プログラム」をも担当していることもあり、プログラム参加者はもちろん、プログラムに参加していない留学生からも、就職相談を受けることがしばしばある。プログラムで行っている就職ガイダンスやSPI対策、ビジネスマナー講座などは、本学の全留学生に開放しているため、プログラム参加者以外の留学生も参加し、それを機に就職相談に繋がるケースも少なくない。プログラム参加者以外の留学生には、計画的に準備している人もいるが、周囲の学生の内定や、予定していた進路の変更、研究が落ち着いたタイミングなど、各々の事情やペースで相談に来る傾向にある。そのため、同じ時期でも、個々人によって就職活動の状況が異なっており、個別対応を余儀なくされる。2024年度は、山梨県内の企業への就職を決めた留学生が複数あり、県内企業への関心と県内定住化が進みつつあることを感じている。また、中国の杭州電子科技大学からデュアルディグリーで入学した留学生の中にも、学位取得後は日本で就職したい希望をもつ人も数名おり、研究の合間に日本語学習や就職の準備を進め、内定を獲得した学生もいた。

就職相談以外では、年度をまたいだ継続相談のほか、新たに学生本人による相談や、グローバル推進課からの連絡により面談に至るケースがあった。留学生の在留資格更新の確認のタイミングで、なんらかの問題があることが分かり、指導教員とともに自宅訪問や面談、学域の職員も交えての教学支援などを行った。学生サポート室とも連携を図り、必要に応じて、学生サポート室において留学生本人と指導教員、カウンセラーと、留学生相談員が会して今後の対応を検討することもあった。学部新入生への個別面談や、2～4年次生への対応については後述の通りである。

#### 2. 学部新入生個別面談

毎年5月の大型連休明けから、学部新入留学生を対象に30分～1時間程度の個人面談を実施している。留学生に留学生相談室に来てもらい、対面で入学後の生活の様子や気持ちなどを聞いた。

毎年この時期に行っている個別面談では、留学生相談室があることを新入生に知ってもらい、今後利用しやすいよう、相談担当教員との顔合わせの意図がある。また、入学当初の不安な気持ちや知りたいこと、困っていることは個人によって異なるため、誰に尋ねたらいいかわからないことも、個別に話す機会を設けることで、問題や不安を解消したり適切な窓口を紹介したりすることが可能となっている。甲府市の条例で加入が義務化されている自転車の任意保険加入についても、新学期の留学生ガイダンスで案内しているが、個別面談で加入の有無を確認・指導を行っている。また、低学年のうちから、卒業後のキャリアを見据えた大学生活を送ることを考えてもらい、国際化推進センターでも低学年からキャリア教育を行えるよう、個人面談では卒業後の進路についても話し合った。勉強については、学部留学生が在籍する工学部、及び生命環境学部の一年生の必修科目に、数学や物理、化学といった基礎科目や基礎ゼミがあるが、留学生の中には母国で習ってこなかった、苦手だという者が毎年いる。この個人面談で、勉強の仕方を話し合い、学内の相談リソースを案内するなどしている。

### 3. 学部生への学修・健康チェック

2024年度も全学部留学生に対する学修と健康に関するアンケート調査を行った。新入時だけでなく、学年が上がっても、それぞれのステージならではの悩みや不安があるため、数年前から毎年行っている。調査は、2024年度も Google Forms で行い、体調不良や、気持ちの落ち込みや悩みがある、複数の科目で単位を落としているなど気になる回答が見られた学生には連絡をとり、相談の希望があれば、相談に応じた。

### 4. 留学生ガイダンス・生活ガイダンス

新入留学生を対象に、2024年度は4月3日にガイダンスを行い、同日に、前期の日本語・日本語関連科目の履修を希望するすべての留学生を対象に日本語プレイズメント・テストを実施した。後期は、9月19日に日本語プレイズメント・テストを実施した。

4月の新入生対象の留学生ガイダンスでは、国際化推進センター、及び教学支援部・グローバル推進課の教職員の紹介からはじまり、学年暦、本学で開講されている日本語・日本語関連科目、日本語 Intensive Course、日本語補講の説明のほか、留学生相談室やG-フィロスの紹介を行った。また、生活ガイダンスとして、新型コロナウイルス感染予防やゴミの分別、交通安全、災害への備えなどの説明を行った。プレイズメント・テストは前期、後期ともオンラインで実施した。

## II . 支援

### 1. 留学生チューター制度 / 留学生サポーター制度

山梨大学では、入学後1年目の留学生に対する支援制度として、チューター制度、サポーター制度、及び交流パートナー制度が設けられている。

留学生チューター制度は、入学後1年目の研究生、及び交換留学生に対して、留学生と同研究室の学生や受け入れ教員の推薦する学生が、一年間チューターとして勉学や生活上のサポートをするものである。2024年度前期は21名、後期は23名がチューターとして選出され、前期、後期ともオンラインで複数回説明会を開いて、謝金手続きに関する説明や活動方法、活動内容、活動する際の留意点などを、資料を基に説明した。

留学生サポーター制度は、活動時間を10時間以内と限定した上で、学生サポーターとなった学生に、大学院留学生の入学当初の市役所や履修等の諸手続きの補助を行ってもらおうというものである。市役所や郵便局等での手続きは、煩瑣でサポートする側の負担も大きい。そのため、期間限定であるとはいえ、入学当初の諸手続きをサポートしてくれる学生に謝金を支払うこの「留学生サポーター制度」は、大学側の留学生支援の一環として2019

年度から導入している。2024 年度前期 3 名、後期 17 名がサポーターとして、市役所での住民登録や印鑑作成、銀行口座の開設、携帯電話の購入などにおいてサポートをしてくれた。

また、成績不振や勉学に不安のある学部 2 年次以上の留学生に対しては、クラス担任の教員に面談してもらった後、同学年・同学科の学生や先輩学生をチューターとして推薦してもらい、当該留学生にとって難しい授業の勉強や課題作成の補助などをしてもらっている。この制度は 2014 年度から導入し、2024 度は該当者がいなかった。

また、いずれのチューター、サポーターにも、チューターやサポーターとなった学生自身が活動の中での問題等を抱え込まないよう、CNS のコミュニティにおいて、気軽に相談できる窓口として留学生相談室を案内している。

## 2. 学部一年次外国人留学生交流パートナー制度

学部新入留学生に対する支援として、交流パートナー制度を導入している。

学部生にとって、同学年・同学科のクラスメイトの友人を作ることは、授業課題や試験対策などで助け合うだけでなく、大学生生活の様々な情報交換や交流の機会を得ることにもなる。そのため、これまでの大学院生によるチューター制度から、2014 年度は同学年・同学科の日本人学生をチューターとする制度に、2015 年度からは謝金を伴わないボランティア活動として交流パートナー制度に改めた。交流パートナーの日本人学生は、要件を満たせば、自発的教養科目（ボランティア活動）の 1~2 単位を取得できる。同じクラスメイトの日本人学生が、留学生の交流パートナーとなり、留学生のクラス内での仲間づくり・居場所づくり、及び学生間の協働学習促進の一助を担っている。

2024 年度は、学部 1 年生の留学生 5 名と日本人のクラスメイト 9 名が参加した。前期に説明会を行った後、昼休みに交流会を開催したほか、前期に全体のバス旅行、後期に学科ごとの文化体験を企画・実施した。バス旅行は 7 月 28 日に行われ、ほうとう作り体験や身會岐神社、信玄公ミュージアムの見学などを通じて、山梨県や甲府市の文化に触れながら親睦を深めた。また、後期には、学科ごとに甲府市の文化体験に出かけ、ジュエリー制作や美術鑑賞を行い、それぞれ楽しい思い出を作ったようである。



ほうとう作り体験



信玄公ミュージアムの見学



ジュエリー制作

### 3. 国際交流会館/ ANNEX / 甲斐路分館

2024年度は4月11日に国際交流会館、並びに国際交流会館 ANNEX のオリエンテーションを、国際交流会館2階の多目的ホールにて開いた。オリエンテーションでは、会館チューターの学生が、日本語と英語、中国語で、寮費や光熱費の支払い方法や共同キッチンや洗濯室、ロビーの使い方、ごみの出し方、非常時の避難場所などについて説明した。また、大学職員からは、会館内のWi-Fiを皆が安全にスムーズに使用できるよう、インターネット使用における注意喚起を行った。

後期は、10月17日にオリエンテーションを開いた。後期は、中国は杭州電子科技大学からのデュアルディグリーの学生たち40名ほどが入ってきて、会館の多目的ホールに収まりきれないことから、オンラインでの実施となった。オリエンテーションに先立ち、新入生に対しては、寮の担当職員や会館チューターが入寮した時点で当面必要な案内を個別にしているが、オリエンテーションでは寮のルールや使い方、ゴミ分別や捨て方などの説明や、ゴミ分別や災害に関する多言語アプリの紹介も行った。前期同様、大学職員からは、会館内のWi-Fiを皆が安全にスムーズに使用できるよう、インターネット使用における注意喚起を行った。

### 4. 留学生のための「日本で安心・安全に暮らすための講話」

11月19日(火)、甲府キャンパスにおいて、甲府警察署による留学生向け「日本で安心・安全に暮らすための講話」を開催した。本講話は、留学生が事件・事故・犯罪等に巻き込まれることなく、安全に日本での学生生活を送れるように、甲府警察署のご協力をいただき、毎年開催している。盗難や痴漢、危険ドラッグ、交通ルールや交通事故・トラブルにあった時の対応など、多岐にわたる内容についてお話いただいた。特に、多くの留学生が利用する自転車の交通ルールについては、動画を交えながらわかりやすくご説明いただいた。



今回の講話を通して、治安の良い国というイメージの日本であっても事件・事故に巻き込まれないよう、十分に気をつける必要があることを、改めて留学生に呼びかけた。また、甲府警察署による講話の後、甲府市役所の方から、生活に役立つ防災情報やイベント情報を手軽に入手できる、甲府市内の留学生向けコミュニティ「KoRyu Net(こうりゅうネット)」についてのお話があった。留学生にはこのようなSNSなどを活用しながら、必要な情報を得て、安全に、そして安心して暮らしてほしいと願っている。

### Ⅲ．文化交流

#### 1. 実地見学旅行

2025年2月20日、21日の2日間の日程で、山梨県を周遊する実地見学旅行を実施した。この実地見学旅行は、留学生が県内外をはじめ、日本の自然や文化に触れ、理解を深めることを目的とし、毎年行われている。新型コロナウイルスの流行により2020年度以降は中止を余儀なくされていたが、2023年度から再開した。2025年度は22名の留学生と、3名の日本人学生が参加した。日本人学生は、旅のしおり作りや旅行中の案内等を行った。

一日目は、リニア見学センターを見学した後、富士山世界遺産センターを見学し、忍野八海を思い思いに散策した。二日目は、甲斐黄金村にて砂金採りを体験した後、身延山久遠寺を訪ね、桔梗屋信玄餅テーマパークでは包装体験や買い物を楽しんだ。



砂金採り体験



身延山久遠寺



信玄餅包み体験

#### 2. ホームステイ/ホームビジット

毎年恒例行事だったホームステイ/ホームビジットは、2019年度以降しばらく実施できずにいたが、2024年度は5年ぶりに実施することができた。6月22日、23日に実施し、10組（ステイ：5組、ビジット：5組）のホストファミリー、18名の留学生（ステイ：7名、ビジット：11名）が参加した。一緒に、おにぎりやたこ焼き、手巻き寿司などの日本の料理や留学生の国の料理を作ったり、おしゃべりしたり、ホストファミリーの子どもたちと遊んだり、温泉や農産物マーケットなどを訪れたり、各々日本文化体験や文化交流を楽しんだようである。参加したホストファミリー、留学生双方から満足した声が聞かれ、ホストファミリーからは次回も楽しみにしているといった声も寄せられた。このホームステイ/ホームビジットは、留学生を受け入れてくださる地域の方々のご協力あってこそこのイベントである。快く受け入れてくださったホストファミリーの皆様へ心から感謝申し上げたい。

#### 3. 留学生の華道体験

「留学生の華道体験」は、本学の華道部の協力を得て、毎年甲府キャンパスの大学祭に合わせて行われている。2024年度は11月1日に開催し、11名の留学生が参加した。顧問の跡部先生の説明を受けながら、参加者たちは

それぞれ思うように活けた後、一人一人先生に手ほどきを受けてそれぞれの個性と感性を一層際立たせる作品へと完成させた。参加した留学生からは、「日本文化である生け花を体験できてよかった」「楽しかった」という感想が聞かれ、日本留学における思い出深い体験となったようである。作品は、大学祭の間、展示して来場者に鑑賞してもらった。



## 2. 山梨留学生就職促進プログラム（通称：IRCS）

本学は令和2年度から文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」の一環として「山梨留学生就職促進プログラム」を実施しています。以下は令和6年度におけるプログラムの活動報告です。

### 山梨留学生就職促進プログラム

#### ― 活動の概要と令和6年度の取組状況 ―

伊藤 孝恵・布村 猛

本章においては、令和6年度の活動報告をするにあたり、プログラム全体の概要、目的を概観する。その上で令和6年度における活動に焦点をあて、活動内容、及び成果、課題について述べる。

#### はじめに

本報告は大きく3つで構成されている。

はじめに、留学生就職促進教育認定制度にて令和5年度より認定を受けた「山梨留学生就職促進プログラム」の概要について述べる。次いで、本プログラムの3本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について、令和6年度の活動内容を報告する。最後に、活動の総括と今後の課題について記す。

### 1. プログラムの趣旨と特徴

#### 1.1 背景と目的

本学は、『地域の中核・世界の人材』を旗標に、第三期中期計画（平成28年度～令和3年度）に従って、海外、特にアジアから多数の留学生を受け入れ、エネルギーや医工農学分野の融合研究を積極的に推進してきた。令和元年度からはデュアルイグリー制度を活用した、AI、IoT、ロボティクス分野の充実が顕著である。その一方で、地域に目を向けると、基幹産業であるロボティクスや機械電子工業は深刻な人手不足に苛まれている。このような地域のニーズに応えるべく、本学では、地域人材養成センター（旧 地域未来創造センター）が平成27年度に文部科学省から地方創生推進事業(COC+)を受託し、『地域の中核』を担う人材を定着させるキャリア教育カリキュラムを、本学並びに県内10大学向けに整備し、県内自治体や企業との密接な連携を確立してきた。

これに加えて本学国際化推進センターは、留学生向けに充実した日本語教育、及び日本事情教育を提供してきた。さらに、平成30年度には留学生指導教員がキャリアコンサルタントの国家資格を取得し、個別の就職面談やガイダンス等を実施することにより、令和元年度には卒業・修了留学生の国内就職率45.7%を達成している。

そこで、両センターが提携し、山梨県・甲府市・県内経済団体と産学官三位一体のコンソーシアムを構成することにより、独自の「イノベーション・研究駆動留学生就職促進プログラム」を提案し、留学生人材による地域産業の問題解決を図ると同時に、キャリア教育の体系化による国内就職率のさらなる向上と他大学への波及効果を狙うことを目的とする。

#### 1.2 プログラムの中心となる2つのトラック

本節では、プログラムの特徴である2つのトラックについて、その活動の内容に触れながら紹介をする。

本プログラムの最大の特長は、プログラム参加時点での留学生の日本語力に応じた2つのトラック（「イノベーション駆動トラック」「研究駆動トラック」）を有していることにある。

「イノベーション駆動トラック」は、日本語能力試験N2相当以上の日本語力をもつ留学生を対象としている。留学生が自身の専門性を高めながら、自己理解や仕事理解を深め、日本語力やビジネスマナー、就職活動スキルを身につけることにより、自分が活躍できる場を見つけ、それを獲得できる力を養う。

一方、「研究駆動トラック」は、日本語能力試験N2、ないしN3相当の日本語力を身につけることに注力するとともに、企業との共同研究の中で日本の企業文化に触れながら、日本において自身の専門性を活かし活躍できる場を見つけ、それを獲得できる力を養う。

いずれのトラックも、県内企業を理解・交流する機会を設けることで、地域に根ざす高度人材の輩出をも目指し、日本での留学生の就職促進を図る。

### 1.3 プログラムを支える3本の柱

次に教育における3本の柱である「日本語教育」「キャリア教育」「企業理解教育」について述べる。

#### 1.3.1 日本語教育

まず、「日本語教育」について本学は、第三期中期計画に従って、アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生の受入れ拡大に取り組んできた。それに合わせて、英語対応コースの漸増も含め、カリキュラムのグローバル化も進めてきた。このような環境整備のなか、留学生のうち実に6割以上は大学院生が占め、その中には、学位取得後に日本に留まって働くことを希望する者も現れている。

しかしながら、大学院留学生の7割以上は、日本企業での就職に求められる日本語力に到達しておらず、特に英語コースの大学院生の場合は、大学院修了時点においても日本語力をほとんど有していないという課題がある。

一方、学部生に目を向けると、就学前から日常生活に不自由のない程度の日本語能力は有しているものの、修学後に部活動やインターンシップに参加する機会が少なく、日本のコミュニティやビジネスにつながるレベルへのスキルアップには至っていないという課題がある。

これらの課題を解決するために、まず、英語で学位取得を目指す大学院生については、入学時に日本語能力試験N4レベルに到達できるように、渡日前に各自で日本語学習を進めるよう、適切なオンライン教材の提案と、定期的なオンラインミーティングを活用し日本語指導を提供する。また、大学院入学後は、日本語学習の重要性を周知し、各自で学習を継続するよう促す。さらに、希望者には正規カリキュラムの枠外で、日本語学習の支援を提供し、修了時にはN3からN2レベルの日本語運用能力を目指すよう指導する。一方、入学時に既にN2相当程度の日本語力を備えている学生には、N1対策やBJT対策、ビジネス日本語の教育機会を提供するとともに、日本のビジネスマナーも体得する機会を設ける。以上が「日本語教育」の概要である。

#### 1.3.2 キャリア教育

次にキャリア教育についてであるが、国際化推進センターでは、キャリアコンサルタントの国家資格を有する日本語教員が、個別面談等を通してキャリア指導を行うとともに、長年、本学のキャリアセンターと共同で就職ガイダンスを開催してきたほか、就職相談会や就職セミナー等も開くなど、留学生を対象としたキャリア教育を行ってきた。しかし、留学生が企業関係者と接する機会が少ないため、日本の企業文化理解や日本企業で働くイメージ作りが十分できなかつたという課題がある。

そこで、イノベーション駆動トラックの留学生に向けては、自己分析や業界研究、企業研究などのセミナーやワークショップを行い、エントリーシート作成等につなげるほか、筆記試験対策や面接対策といった実践対策も講じ、体系的なキャリア教育を提供する。

研究駆動トラックの留学生に向けては、メンターの役割を担う共同研究者を割り当て、その交流を通してキャリアについて真剣に考えられるような機会を提供する。以上が「キャリア教育」の概要である。

### 1.3.3 企業理解教育

3つ目に「企業理解教育」についてであるが、日本企業で働く上で、日本の企業文化や日本人の価値観、日本の慣習に対する理解が肝要であると考え。そのため、本学の共通教育科目である「日本事情Ⅰ」「日本事情Ⅱ」を本プログラムに取り込み、日本の慣習や日本人の考え方を知るとともに、留学生からも母文化を発信し、日本人と留学生の双方が理解し合うことを目指す。また、企業文化理解のためには、コンソーシアムの企業・団体から講師を派遣してもらい、日本の企業文化に関するセミナーを開催し、日本の企業文化や県内企業に対する理解を図る。

留学生と企業との出会いの場という意味においては、インターンシップや企業見学会は、最たるものだと見える。コンソーシアム加入企業からの協力を得て、インターンシップや共同研究、県内企業の見学会を実施する。

また、本学の地域人材養成センター（旧 地域未来創造センター）の「未来計画研究社」が主催する「Miraiプロジェクト」には、参加企業・団体と学生が協働で取り組むプロジェクト型の授業科目「フューチャーサーチ」がある。各プロジェクトへの取り組みを通じて、学生は地域の課題を知るとともに、課題解決力やチームワーク力、発表力を培い、自分が将来働くイメージを形成していくことを目指している科目であるが、しかし、これまでは本学の留学生の参加はなかった。

そこで、本プログラムにおいては、文部科学省委託事業期間に外部評価委員より受けたアドバイスに基づき、「フューチャーサーチ」を令和5年度からプロジェクト型のインターンシップと位置づけた。そして、「フューチャーサーチ」への参加も本プログラムで積極的に勧め、地域人材養成センターと連携して、留学生の指導・支援にあたる。これにより、留学生が企業とともに主体的に地域のプロジェクトに関わることで、企業関係者との交流の機会がもてるだけでなく、県内の観光や産業への理解・関心、ひいては県内企業への就職へとつながることが期待できる。以上が「企業理解教育」の概要である。

### 1.4. プログラムポイント制度

本プログラムが留学生就職促進教育認定制度に認可されるにあたり、新たな導入として「ポイント制度」がある。これにより、留学生の受講状況の把握と修了証の発行という、プログラム側の管理が容易になったことに加え、留学生自身が自分の就職に向けた準備状況を可視化し、計画しやすくなった。また、採用側の企業も、留学生が本プログラムでどのようなことを学んできたのかの把握がより容易となった。本プログラム開始当初は、「山梨留学生就職促進プログラム」に参加した留学生が、今までの留学生とどのように違うのか、イメージを把握することが難しい、との声が企業から聞かれたが、「ポイント制」の導入は、この問題の解決に寄与するものである。

### 1.5. コンソーシアム参画団体の役割

令和5年度から、産学官から成るコンソーシアムには、山梨大学のほか、山梨県、甲府市、産業界からは一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会、一般社団法人山梨県情報通信業協会、一般社団法人山梨県機械電子工業会、甲府市商工会議所が参画し、本プログラムを支えている。

山梨大学では、学内の地域人材養成センターと「Miraiプロジェクト（フューチャーサーチ）」への留学生の参加において協力体制をとっている。また、キャリアセンターには、留学生のインターンシップ先の開拓のほか、キャリアセンター開催のインターンシップ・ガイダンスやインターンシップ・マナー講座をプログラムにおけるインターンシップ指導へ活用することなど、インターンシップを中心にエントリーシートの添削など多方面で協力を仰いでいる。

山梨県、並びに甲府市については、2024年7月31日開催の山梨県主催「外国人留学生合同就職フェア」に、本プログラム生が参加したほか、11月13日開催の山梨県主催「外国人留学生ガイダンス&交流会」にも10名が

参加し、県内企業と就職に関して交流する機会を得た。また、企業見学会は、甲府市のふるさと応援寄付金により実施され、留学生が県内・市内企業と出会い、理解する機会を提供していただいている。

県内の経済団体からは、インターンシップの受け入れをはじめ、ビジネスマナー講座や企業文化セミナーの講師を派遣していただいている。また、11月23日開催の一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会主催のビジネスアイデアコンテスト&交流会に、留学生も参加しビジネスアイデアをプレゼンしたほか、県内企業との交流を深めた。

このように、令和6年度もコンソーシアム参画団体から、日本語教育、キャリア教育、企業理解教育の分野で協力を得ながら、また本プログラムからも、参画団体主催のイベントに留学生が積極的に参加し、相互連携して留学生の就職の支援・促進を図っている。今後も、これらの連携を深めながら、留学生の日本国内での就職率向上と就職の定着を目指していく予定である。

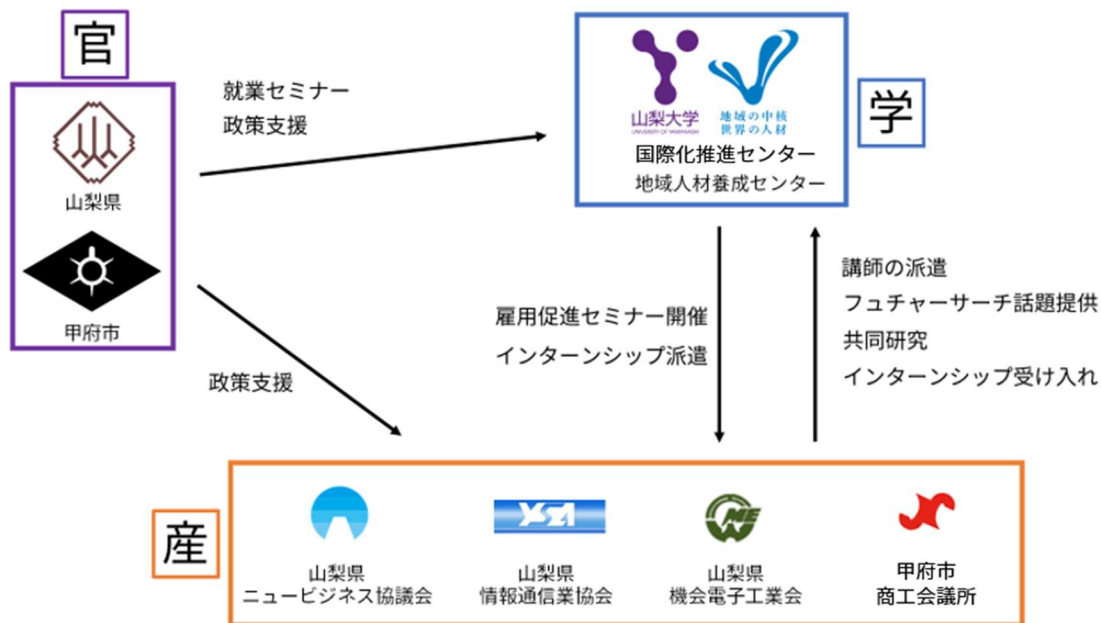


図1 「山梨留学生就職促進プログラム」実施体制

## 1.6. 集合型教育と個別型教育

「イノベーション駆動トラック」と「研究駆動トラック」に国際化推進センターの教員が担当者として一名ずつつき、それぞれキャリア教育プログラムの設計・実施、日本語教育コースの運営などを行っている。この体制については令和6年度も継続した。

各コースでは、コース担当の教員が、各ガイダンスやセミナーなど、学生を一同に会しての、プログラム独自の集合型教育を提供しているほか、個々の就職相談やエントリーシートの添削や面接指導など、個別型教育も行っている。これにより、主に集合型教育では留学生を就職活動の流れに合わせて準備を進めやすくするとともに、個別型教育では実際の就職に結びつけるための出口に繋げる効果を挙げている。

## 2. 令和6年度参加者

イノベーション駆動トラック 19名、研究駆動トラック 12名が参加した。

参加者の内訳について学年別では、イノベーション駆動トラックは、学部1年が1名、学部2年が6名、学部3年が2名、修士1年が4名、修士2年が4名、博士1年が1名、博士3年が1名であった。

研究駆動トラックは、修士1年が4名、修士2年が3名、博士2年が3名、博士3年が2名であった。

### 3. 日本語教育

学部開講日本語科目以外の、プログラム開催のイベント・講座については以下の通りである。

開催日	イベント・講座名	イベント・講座内容	参加者数
7月5日	ビジネスマナー講座Ⅰ	マナーの重要性、習得の意義 お辞儀の仕方、椅子の座り方、発声の演習	12名
7月8日	BJT ビジネス日本語能力テスト 対策講座	BJT の特徴、演習	10名
7月12日	ビジネスマナー講座Ⅱ	面接会場の入退場の演習	17名
2月1日～3月 28日	渡日前日本語教育	生活、ビジネスに繋がる実用日本語教育	7名
3月31日	ビジネスマナー講座Ⅲ	職場でのコミュニケーションマナー、電話応 対演習	7名

#### 3.1. 日本語教育の目的

イノベーション駆動トラックでの日本語教育の主な目的は、汎用性の高い日本語力の向上とともに、インターンシップや採用面接、入社後に必要な基本的なビジネス日本語やビジネスマナーを実践的に学ぶ場を提供することである。具体的には、学部開講科目であるビジネス日本語の開講と、様々なビジネスマナー講座を通じて、留学生が日本のビジネス日本語やビジネスマナーの基礎を身につける機会を設けている。

研究駆動トラックは、大学院英語コースに入学する学生を主な対象としているため、日本語教育の目的は日本での生活や企業内でのコミュニケーションに必要な最低限のコミュニケーションを達成できるようになることである。それに加えて、自身の専門領域については専門用語を使いながらコミュニケーションを取れるようになることを目指す。

#### 3.2. 令和6年度の教育内容

##### 3.2.1. ビジネスマナー講座の実施

ビジネスマナー講座は年間を通して3回開催した。第一回と第二回はプログラムのコンソーシアム参画団体の一つである、一般社団法人山梨県ニュービジネス協議会事務局から講師を迎えた。第一回には、マナーの重要性について教えていただいた後、お辞儀の仕方、椅子の座り方、発声の練習を行った。また、七夕の由来を学んだ後皆で七夕飾りを行い、時宜にかなった日本文化理解の機会となった。第二回には、面接会場の入退場の仕方を教えていただいた。

第三回は、禮道古流(株式会社雅)から講師を迎え、電話応対の実践練習など、さらに高度なビジネスマナーを教えていただいた。

これらのビジネスマナーは、就職活動だけでなく、入社後にも役立つものであり、プログラムでは就職後も見据えたマナー指導を行っている。

##### 3.2.2. BJT 対策講座の実施

日本漢字能力検定協会から講師を迎え、練習問題への取り組み等を通じて、BJT ビジネス日本語能力テストの特色を知るとともに、ビジネス日本語学習の啓発機会を提供した。

##### 3.2.3. 渡日前日本語教育の実施

英語コースの学生に対して、生活者としての、あるいは、ビジネスの文脈でのコミュニケーション能力の向上につながる日本語プログラムを提供した。本学の大学院英語コースに所属する学生は、すべての課程を英語

で修了することができることから本質的には日本語学習を必要としていない。しかしながら日本での就職を希望する以上は最低限の日本語でのコミュニケーション能力を有することが求められており、その学習をする必要がある。多くの大学院生は、入学後直ちに研究を開始しながら、就職活動を開始しなければならないため日本語学習の時間を確保することが困難である。そこで、本学では大学院入試合格後、日本へ渡航するまでの期間を使用して渡日前にオンラインで日本語教育を提供した。令和6年度は2月から3月に実施した。7名の学生が参加し、来日後実際に使用する研究室でのコミュニケーションや、ビジネス場面でのコミュニケーションを学んだ。

#### 3.2.4. 専門日本語教育（サイエンスコミュニケーション）の実施

研究駆動トラックでは、自身の専門性をいかしたキャリア形成を望む学生にとって、その関心とアカデミックな取り組みを日本語で説明できるようになることは重要なステップである。そこで、本学では正規科目日本語 intensive 初級のプレゼンテーションの授業を活用したサイエンスコミュニケーションの講座を提供した。参加学生は、自身の専門を、専門用語を使いながらも、簡単でわかりやすい表現（いわゆる文法）を使用し説明できるようになることを目標とし、プレゼンテーションを作成した。これにより、企業の方とインターンや面接などの場面で話す際に自身の研究活動について日本語で概要を話すことができるようになった。令和6年度は後期開講の intensive 初級に4名の学生が参加した。

#### 3.2.5. JLPT ハーフ模試の活用

研究駆動トラックでは、これらの日本語学習へのフィードバックとしてアスク出版が提供する JLPT オンラインハーフ模試を活用した。JLPT オンラインハーフ模試は、実際の問題数の半分の問題数で、JLPT で問われる言語技能の到達を測定することができるものである。日本における就職活動でも留学生の日本語能力を客観的に証明する方法として、JLPT が最も一般的に採用されている。しかしながら、受験の機会が年二回しかないこと、受験料が7500円と高額なこと、そして、N3以下では就職活動の際に有利に働かないことから、研究駆動トラックの学生に受験をさせることは難しいという背景があった。しかしながら、JLPT オンラインハーフ模試は、オンラインでいつでも受験可能で、受験料も1回500円と安価なことから、留学生にとっても受験のハードルが下がり、5名の留学生が受験をした。

### 3.3. 今後の示唆

#### ・ 継続的な学習と実践

留学生が学んだビジネス日本語やビジネスマナーを日常生活や今後の採用面接、就職後に活かせるよう、継続的に実践することが重要だと感じている。そのため、挨拶の仕方や敬語、メールの書き方などは、年間を通してプログラム担当教員から指導を行っており、学習内容の継続的な鍛錬を促す工夫が必要である。

#### ・ 多様な学習機会の提供

JLPT 以外の日本語能力試験（BJT など）を通じて、留学生が自分なりの目標を設定し、日本語力の向上に努めることが期待される。

#### ・ 文化的なイベントの活用

七夕のような文化的なイベントを取り入れることで、留学生が日本文化に親しみながら学ぶ機会となった。就職後の生活者としての観点からも、留学生には単に就職活動やビジネス場面で必要なことだけでなく、日本の年中行事や慣習にも親しみをもてる機会を提供することが大事である。



ビジネスマナー講座の様子

#### 4. キャリア教育

学部開講日本語科目以外の、プログラム開催のイベント・講座については以下の通りである。面接練習は個々の相談の中で行った。

開催日	イベント・講座名	イベント・講座内容	参加者数
5月17日	就職ガイダンス	「キャリア」とは、日本の就職活動の特徴、プログラムの特徴とスケジュール	19名
6月6日	キャリアデザイン演習Ⅰ	自己分析とは、人生曲線	15名
6月13日	キャリアデザイン演習Ⅱ	外的キャリアと内的キャリア、RIASEC	14名
6月14日	キャリアデザイン演習Ⅲ	現在、5年後、10年後のライフ・ロール	17名
6月21日	キャリア分析演習	人生すどろく「金の糸」	10名
11月10日	アドベンチャーフォーラム	株式会社リバネスが実施するベンチャー企業による企業説明会+ピッチコンテストイベント	9名
12月12日	業界・企業研究セミナー	就職軸とは、業界や企業	11名
12月19日	業界・企業研究ワークショップ	業界分析、企業分析演習とグループディスカッション	12名
1月14日	SPI 対策講座Ⅰ	言語問題演習	13名
1月15日	SPI 対策講座Ⅱ	非言語問題演習	9名
1月17日	就職活動体験談会	内定者2名による就職活動体験談	12名
3月31日	就職活動相談会	就職活動中の学生同士の情報・意見交換	3名

※研究駆動トラックについては学生の専門や関心に応じて随意行っているため、多くの活動は本表には含まれていない

## 4.1. キャリア教育の目的

イノベーション駆動トラックでのキャリア教育の目的は、留学生が日本での就職活動やキャリア形成に必要な知識とスキルを身につけ、自分らしいキャリアを築くための支援を行うことである。

研究駆動トラックでは、自身の専門が社会の中でどのように生かされるのか、大学院生として積み上げた経験をどのようにビジネスの文脈に活かしていくかを考えることを主な目的としている。その中で、自身の研究からビジネスを起こすという選択肢を与えるためにアントレプレナーシップ教育を積極的に取り入れている。

## 4.2. 令和6年度の教育内容

### 4.2.1. 自己理解に関する講座

イノベーション駆動トラックでは、5月17日の就職ガイダンスで、「キャリア」の概念や日本の就職活動の特徴について説明を行った。6月6日、13日、14日実施のキャリアデザイン演習では自己分析や職業適性の方向性を考えるセミナーを実施した。本格的な就職活動に先立ち、自分の人生の中に職業をどのように位置づけるのか、自分の職業適性の方向性などを考えてもらう機会を提供した。各々人生曲線を描いて、これまでの自分の半生を振り返ってもらったほか、外的キャリアと内的キャリアについて各自考えてきたことをグループで話し合ってもらった。また Holland の RIASEC モデルを用い、簡易的に各自の職業適性を探った。スーパーのライフ・キャリア・レインボーを基に、現在のライフ・ロールと5年後、10年後のライフ・ロールについてそれぞれ考えてもらい、グループで共有した。6月21日のキャリア分析演習では、日本キャリア開発協会の「人生すごろく 金の糸」（商標登録第5683318号）を用いて自己探索・理解を支援した。

### 4.2.2. 業界・企業理解講座

イノベーション駆動トラックでは、12月12日、19日に実施した業界・企業研究セミナー、並びにワークショップで、株式会社オリジネーターの哈芸嬢様より、自分の就活軸を見つけ、その軸をもってどのように業界を見て、自分に合った企業を探すのか、ワークショップも行いながら教えていただいた。2025年1月17日の就職活動体験談会では、就職内定者2名が自身の就職活動体験を共有した。自分の専門から業界を分析し、自分の特性に合った職種を選択した具体的な話は、参加者には業界を詳しく調べるきっかけとなったようである。

### 4.2.3. 就職活動のスキルアップ講座

イノベーション駆動トラックでは、2025年1月14日、15日実施のSPI対策講座では、明光キャリアパートナーズの中山淳子様より、一日目は言語問題、二日目は非言語問題について、演習を中心にその解き方や問題の特徴などを丁寧に教えていただいた。言語問題も非言語問題も、SPIに初めて挑戦した留学生にとっては難しかったようで、その試験対策の必要性を実感したようである。また、エントリーシートが通過した学生には、個別面談において、面接で聞かれる質問を想定した面接練習を行ったほか、3月31日は、就職活動の真っ只中にある就活生同士の意見交換会を催し、プログラム担当教員からも具体的な情報提供やアドバイスを行った。

### 4.2.4. キャリアポートフォリオの作成と活用

研究駆動トラックでは、留学生が自身の専門とキャリアの関連性を整理すること、そしてその情報を企業側に提供し、インターンシップや企業との面談などの機会をより多く獲得できるようにキャリアポートフォリオを作成し、希望する企業側に情報を公開した。キャリアポートフォリオは専門性やスキルを共有することに特化した履歴書のようなものであり、個人情報的一切排除することで企業側への提供ハードルを下げるとも

に、先入観なく留学生の能力を評価することができるようにした。令和6年度はこのキャリアポートフォリオを通じて2件の企業訪問と1件の共同研究が実現した。

#### 4.2.5. アドベンチャーフォーラムへの参加

研究駆動トラックでは、専門性を活かしたキャリアの開拓のために山梨県内の企業に限らず、研究力を活かしたビジネスを展開する企業との交流の機会を積極的に提供した。とくに、研究力を活かしたビジネスを展開するベンチャー企業数は近年大きく伸びており、そのような企業との交流は、留学生に専門性を活かした企業への就職の機会を提供するものとなった。また、そのような企業の創業のプロセスを聞き、学ぶことで、自身も起業することができるという、新たな選択肢を提供することができた。令和6年度、就職促進プログラム参加経験のある1名が起業に挑戦した。令和6年度中の起業は実現しなかったが、令和7年度中の実現に向けて現在取り組んでいる。

### 4.3. 今後の示唆

#### ・継続的な支援と指導

留学生が自分らしいキャリアを築くために、継続的な支援と指導は重要である。講座は気づきを与えたり考えたりするきっかけとなるものであり、自己理解や業界研究、筆記試験対策などには、その後の各自の取り組みが必須である。プログラムでは、講座終了後も、様々な機会を通じて各自の取り組みを促している。

#### ・自己分析の深化

自己分析を深めることで、自分に合った職業や企業を見つける手助けとなる。就職活動ではエントリーシート対策や面接対策にも生かすことができ、また、明確な自己理解は効率的な就職活動にもつなげやすくなる。そのため、自己理解を促す講座を複数設けるほか、自己理解の必要性を業界研究等の講座の中でも、関連づけて繰り返し伝えていくことが大切であると感じている。

#### ・多様な学習機会の提供

キャリア形成に役立つ多様な学習機会を提供し、留学生が自分のキャリアを主体的に考える力を養うことが期待される。セミナーやワークショップという形式に限らず、後述するインターンシップや Mirai プロジェクト、企業見学会など、企業との協働活動や意見交換、現場の見学などを含めた多様な形で、留学生が自己の適性やキャリアビジョンに適った仕事や職場を考え見つける機会を提供していくことが求められる。

#### ・成功事例の共有

先輩留学生の成功事例を共有することで、後輩留学生のモチベーション向上と具体的なキャリア形成の参考になっている。特に、同じ大学の先輩の体験談は、学内事情を互いに共有していることから、具体的に踏み込んだ質問やアドバイスがしやすく、会の後に個別に連絡を取って相談に乗ってもらえるなどの利点もある。



キャリアデザイン演習の様子



キャリア分析演習の様子

## 5. 企業理解教育

学部開講科目以外の、プログラム開催のイベント・講座については以下の通りである。インターンシップについては後述する。

開催日	イベント・講座名	イベント・講座内容	参加者数
4月23日	Mirai プロジェクトマッチングイベント	企業と学生とのマッチング交流	6名
5月20日	Mirai プロジェクトキックオフミーティング	各プロジェクトメンバーの顔合わせとプロジェクトのスケジュールリング	6名
10月3、7、9、11日	Mirai プロジェクト第一回進捗状況報告会	5月～9月までの進捗報告	6名
12月10、12、19日	Mirai プロジェクト第二回進捗状況報告会	10月～12月までの進捗報告	6名
2月7日	フューチャーEVO	Mirai プロジェクト最終成果報告	6名
2月6日	企業文化セミナー	シーマ電子株式会社	5名
2月19日	企業見学会Ⅰ	株式会社アセラ 株式会社吉字屋穀店	5名
2月25日	企業見学会Ⅱ	スタンデックス エレクトロニクス ジャパン株式会社	6名

※研究駆動トラックについては学生の専門や関心に応じて随意行っているため、多くの活動は本表には含まれていない

### 5.1. 企業理解教育の目的

企業理解教育の目的は、留学生が日本の企業文化や業界について理解を深めることである。これにより、留学生が日本での就職活動や職場での適応をスムーズに行えるよう支援する。

### 5.2. 令和6年度の教育内容

#### 5.2.1. インターンシップ

インターンシップは、自分が関心をもつ業界・企業で実際の業務を体験することで、自らの能力を見極め、汎用的な能力、スキルを養うことができる。特に、留学生には、日本の企業風土や職場文化を体感的に学び、自分のキャリア形成をイメージできる機会として、本プログラムではキャリアセンターとも協力して、積極的にインターンシップを取り入れている。

留学生の受け入れに消極的な企業に対しては、キャリアセンターの職員と本プログラム担当の教員が、留学生の面接に同行して丁寧な説明を行い、留学生のインターンシップを認めてもらったケースもあった。

イノベーション駆動トラックでは、大学のキャリアセンターを介して参加する者もいたが、ナビ会社や希望の会社のHPから参加申し込みをする者もいた。5日間以上のインターンシップ先が見つからない低学年の学生には、1日～数日間の職業体験や後述する Mirai プロジェクトへの参加を促した。

研究駆動トラックでは、企業での業務体験型のインターンシップの他に、企業との共同研究で企業を訪問し、企業の設備を使用しながら研究をし、所定の日数を満たした場合にインターンシップと認定した。

#### 5.2.2 Mirai プロジェクト (フューチャーサーチ)

Mirai プロジェクトは、地域のニーズや課題に対し、企業・団体と学生とが協働で取り組むプロジェクトで

ある。学内の地域人材養成センター主催で、「フューチャーサーチ」という科目名で単位化もされている。県内8大学・短期大学の学生が、各々の関心に応じて、複数のプロジェクトに主体的に取り組むことにより、情報収集力や課題解決力など社会で役立つ実践力を身につけることを可能としている。本プログラムでは、低学年の留学生には、インターンシップの代わりにこのMiraiプロジェクトを組み込み、企業との協働活動を通じた企業理解の場を提供している。

令和6年度はイノベーション駆動トラックの留学生6名が以下の4プロジェクトに参加した。約半年間に亘る、企業・団体との協働活動、並びに2回の進捗報告会と最終報告会を通じて、地域の課題に対する理解や課題解決力、プレゼン力を培った。

- ・身近なところからものづくりとSDGsについて 考える仕組みを作ろう！
- ・実践！ 親しみやすく楽しいプログラミング学習会
- ・「ウェルビーイング×動機づけ面接」ワークショップを運営しよう
- ・木と鉄の可能性をカタチに～こんなのあったらいいよね商品開発～

### 5.2.3. 企業文化セミナー、企業見学会

本プログラムでは、留学生が県内企業や日本の企業文化を知る機会として、企業を招致して企業から直接話を聞く企業文化セミナーや企業見学会を行っている。

イノベーション駆動トラックでは、2025年2月6日にシーマ電子株式会社を招いて企業文化セミナーを開催し、企業の事業内容の紹介とともに、外国人社員の働き方や苦労について講演していただいた。参加した留学生からは、日本のビジネスマナーや働き方に関する質問があり、企業における挨拶やコミュニケーションの重要性を学ぶ機会となった。

また、2025年2月19日と25日には、甲府市のふるさと応援寄付金を活用し、イノベーション駆動トラックの留学生が甲府市内の企業を見学した。19日の見学会では、自分たちの身近な食を、製造や卸の視点から学ぶ機会を得ることができたようである。また、25日に見学した企業は、北米や欧州、アジア各地に拠点をもつグローバルカンパニーであったこともあり、専門性を活かした仕事やグローバル企業で働く可能性を考える機会となったようである。

### 5.2.4. アドベンチャーフォーラムへの参加

キャリア教育で触れたアドベンチャーフォーラムへの参加は企業理解教育の側面も有している。多くの留学生は来日時、日本の企業に対して独特の企業文化をもった、留学生にとって馴染みにくいものであるというイメージを有していた。しかし、アドベンチャーフォーラムに参加し、ベンチャー企業の持つ、開放的で自由な企業風土を知ること、日本の企業文化にも多様性があることを知り、より広い選択肢の中からキャリア形成について検討することが可能となった。

## 5.3. 今後の示唆

### ・継続的な企業理解教育の実施

自分に合った企業を見つけるためには、様々な形で多くの企業を知る機会をもつことが肝要である。企業理解の最たる機会インターンシップであるが、長期休暇の限られた期間に経験できる企業は限られている。そのため、プログラムとしては、インターンシップ以外にも、留学生に多様な形で継続的に企業理解教育を提供することを通じて、留学生の日本企業への理解を深めることが肝要である。

### ・多様な企業との連携

留学生に幅広い職業選択肢を提供できるようにするためには、様々な業界の企業との連携が欠かせない。プロ

グラム担当教員は、学内外での企業との出会いの場に参加し、教員自身が企業理解に努めるとともに、官民との間で人脈を築いていく必要がある。



企業見学会の様子

## 6. 総括

令和6年度も、当初の計画を概ね実行し、本プログラムにおける就職希望の留学生に占める就職率は約53%となった。また、本プログラムの教育は、学内の留学生全体に広く開放しているため、プログラムに参加していない留学生の就職準備も進み、結果的に大学全体における留学生の就職支援の強化という波及効果も見られた。

ただし、昨今の社会全体の物価高騰の煽りを受け、本プログラムの自活運営においては、企業見学のバス代の値上げなどにより見学先を絞り込まざるを得ないなど、運営面で厳しい点もあった。

自分の専門性やグローバルな特性を活かした就職を希望する留学生からは、多様で複合的な業界や企業の中から、どのように自分に合った企業を見つければよいのか困惑する声は多く、就職活動には自分の活躍の場を見出す力が求められる。そのため本プログラムでは、日本語力やビジネスマナー、SPIといった就職活動スキルの向上とともに、留学生に多様な自己理解と企業理解の機会を提供してきた。また、イノベーション駆動トラック、研究駆動トラックとも、集团的教育のほか個別教育にも力を入れており、様々な情報提供や教育機会の提供ができるよう、今後も引き続きプログラム担当教員自身の情報更新や学内外での人脈構築、そしてプログラムの改善・発展に努めていく必要性を感じている。

## IV. 国際化教育

---

国際的な環境で勉強できるキャンパスの整備に向け、国際化推進センターでは「G-フィロス（グローバル共創学習室）」を中心に、日本人学生と外国人留学生が共に学び、異文化理解・交流を行う機会を数多く設けています。

# G-フィロス

グローバル共創学習室『G-フィロス』とは、国際的なコミュニケーションを育成する場として、異文化理解や語学学習を通じ、学生間で互いに学び合う学習環境のことで、日常的には、英語に限らず語学の勉強を学生同士でお互いにサポートするようなサービスを提供し、それ以外にも異文化交流イベントを開催するなどして、学生の学び合う環境を整えています。

## 1. G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート

### — SA(Student Assistants)による語学サポート・異文化理解と

### アドバイザーによる英語学習・留学サポート —

江崎 哲也

#### 1. はじめに

本学では「山梨大学グローバル化に関する基本方針」に基づき、従前の留学生センターの役割を 2014 年度より拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化することをミッションとする国際交流センター（現国際化推進センター）を設置した。グローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、国際化推進センターでは、G-フィロス（グローバル共創学習室）の管理・運営<sup>3</sup>と、英語学習・留学アドバイザー<sup>4</sup>による学生の英語学習と海外留学のサポートを行ってきた。ここでは、新型コロナウイルス感染症の影響が拡大してさまざまな制約がある中、全ての取り組みをオンラインに切り替える一方で、感染症の影響が少なくなった際には対面で行った 2024 年度の G-フィロス（グローバル共創学習室）の取り組みと英語学習・留学サポートについて報告する。

#### 2. G-フィロス（グローバル共創学習室）関連の活動

本学工学部では、共創学習支援室「フィロス<sup>5</sup>」が学科の壁を越えた学習交流を促進する特色のある取り組みを行っている。しかし、2014 年度前期まで本学には外国語や自国の文化をお互いに教えあったり共有したりする場（旧留学生センターアネックス、国際交流スペース等）はあっても、なかなか活用されなかった。そこで、国際交流スペース（本学甲府キャンパス B-1 号館 221、Y 号館 2 階）において、国際交流に高い意欲をもち、責任感のある留学生と日本語を母語とする学生を SA(Student Assistant 以下 SA)として配置し、さらに TOEIC・TOEFL 関連書籍、日本語学習教材、日英語の DVD を配架して日本人学生及び留学生の語学学習の支援を行うとともに、気軽に異文化交流ができる国際的な共創学習支援環境を提供することとした。表 1 に 2024 年度の G-フィロスの主な取り組み一覧を示す。

<sup>3</sup>平成 26 年度戦略・公募プロジェクトー教育関連プロジェクトー「グローバル人材育成プログラムの実施に向けた国際交流環境整備」（プロジェクト代表者：茅 暁陽）の支援を受けている。本プロジェクトでは、ほかに協定校への海外インターンシップ付き短期留学プログラムの企画と試験的实施、協定校からの学生交流団の受入れを行った。

<sup>4</sup>平成 26 年度・27 年度国立大学法人運営費交付金特別経費「『学長のリーダーシップの発揮』を更に高めるための特別措置枠」による。

<sup>5</sup> <http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/kyousou/index.html>

表1 G-フィロス主な取り組み一覧（左端の番号は表2と同一）

	取り組み名	1回あたり 開催時間	頻度/週	1回あたりの配置人 数	2024年度実施状況
①	イングリッシュ・カフェ	40分	5	アドバイザー1 +SA2～3、本学英語 教員(週3回)	対面で実施
②	イングリッシュ・サポート (2023年度よりイングリッシュ・カ フェに改称)	60～90分	10	アドバイザー1 +SA2～3	対面で実施
③	英語学習・留学個別相談	30分	時期による	アドバイザー1～2	オンライン/対面で実施
④	TOEIC 対策等講座	70分	2	アドバイザー1	オンラインで実施
⑤	全学共通科目「総合英語」履修 者対象講座	60分	4	アドバイザー1	オンラインで実施
⑧	諸外国語カフェ	60～90分	-	SA1～3	対面で実施
⑨	日本語学習サポート	60～90分	10	SA2～3	対面で実施

### 3. 英語サポート SA・英語学習・留学アドバイザーの活動

英語学習・留学アドバイザーは、前掲の表1の①～⑤に関わっているが、ここでは利用者が多い①～④について説明する。利用者数については表2を参照のこと。

#### 3.1. イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート

上記①および②の取組では、英語を話せる SA (Student Assistant)、英語学習アドバイザー、または本学英語教員が、昼休みに「イングリッシュ・カフェ」を毎日開催し、楽しく英語で会話する機会を提供した。さらに、夕方には、さまざまな英語学習支援（イングリッシュ・サポート）を実施した。2024年度のイングリッシュ・カフェおよびイングリッシュ・サポートの延べ利用者数は3,274人であった。

#### 3.2. 英語学習・留学個別相談、プライベート英語レッスン

上記③の英語学習・留学個別相談およびプライベート英語レッスンは、学生が自律的に英語学習を進められるよう支援することを目的として、本学が2019年度から雇用している英語学習・留学アドバイザー2名体制で実施した。1回30分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定、学習計画の立案、動機付け、学習の継続に必要な方策などについて、個別（1対1）にアドバイスや英語レッスンを行っている。相談・レッスン内容は、TOEIC®テスト、TOEFL®テスト、IELTS などの各種試験対策のほか、スピーキングやライティングなど特定の英語技能の向上、さらには留学準備など多岐にわたっている。2024年度の相談件数は延べ1,025件であった。

#### 3.3. TOEIC®等対策講座

上記④の TOEIC®対策講座は、前期/後期に1回70分で複数回行っている。学生が受講しやすいように種々の工夫をしたが、2024年度の対策講座受講者は、延べ238人であった。これ以外にもセミナーを設け（表3参照）、学生が興味を持ち、継続的に英語の学習ができる環境を整えた。

#### 3.4. 山梨県立大学学生へのサービス提供

2021年3月に「一般社団法人 大学アライアンスやまなし」が、文部科学大臣より「大学等連携推進法人」の認定を受けたことに伴い、大学間（山梨大学・山梨県立大学）で、連携開設科目の開設や、共同教育課程を設ける場合の各大学の最低修得単位数の引き下げを内容とする教学上の特例が認められた。これを受けて、2021年

度から山梨県立大学の学生にも、G-フィロスのサービスの一部を提供し、2024年度も引き続き提供した<sup>6</sup>。利用者数は少なかったものの、本学の学生もよい刺激を受けたようである。

表2 G-フィロス各種サービスの利用者数推移

	取り組み名	延べ利用者								
		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
①	イングリッシュ・カフェ	2,317	2,490	2,884	3,906	2,383	1,948	1,939	2,334	3,274
②	イングリッシュ・サポート									
③	英語学習・留学個別相談	1,625	1,104	1,382	1,111	1,250	1,385	1,561	1,123	1,025
④	TOEIC対策等講座	621	881	664	444	467	473	337	448	238
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	635	432	486	647	394	530	336	354	454
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション	239	80	27	10	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
⑦	医学部Cにおける英語学習サポート	156	223	196	111	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
⑧	諸外国語カフェ	242	215	167	179	N/A	49	248	106	172
⑨	日本語学習サポート	593	640	522	639	84	220	410	415	392
⑩	英語自律学習ポイントカード	481	591	604	703	426	417	602	1,110	1,079
⑪	オンライン自習室	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	4,339	N/A	N/A	N/A

#### 4. G-フィロス関連イベント

G-フィロスでは、硬軟織り交ぜた多様なイベントを実施している。表3に2024年度に開催した主なイベントとその参加人数を示す。イベントの主なテーマは、TOEIC®、異文化交流、留学の3つである。いずれのイベントも大変好評であり、これをきっかけにG-フィロスを利用し始める学生も少なくない。また、一部のイベントは学外にも開放した。

さらに2024年度は、前年度に引き続き、本学入学予定の高校生を対象としたTOEICセミナーを開催し、入学前から英語学習に取り組むことの重要性を伝えた。参加した高校生にとっては、本学における英語学習サポートの充実ぶりを実感する貴重な機会となった。

<sup>6</sup> 山梨県立大学の学生にとってのG-フィロスのサービスは、単位修得には直接関与しない。

表3 2024年度G-フィロス関連イベント

日付	時間	場所	イベント名	人数
4月8日	16:50-18:20	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	156
4月9日	15:00-16:00	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	77
4月10日	12:00-13:00	A2-21	G-フィロス&英語学習サポート説明会	74
4月24日	17:00-18:30	A2-21	スタートダッシュTOEIC®L&Rセミナー	84
4月30日	16:30-18:00	G-フィロス	日英バイリンガルトークで英語学習についておしゃべり!	12
5月1日	16:30-18:00	G-フィロス	日英バイリンガルトークで英語学習についておしゃべり!	20
5月2日	16:30-18:00	G-フィロス	日英バイリンガルトークで英語学習についておしゃべり!	8
5月29日	17:00-18:30	A2-12	外国語カフェ(フィリピン)	35
6月27日	17:00-18:30	A2-21	外国語カフェ(ヨーロッパ)	38
7月19日	17:00-18:30	G-フィロス	外国語カフェ(ベトナム)	45
7月22日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	7
7月23日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	12
7月24日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	9
7月26日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	10
7月29日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	7
7月30日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	16
7月31日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	9
7月25日	16:00-18:00	G-フィロス	納涼・世界のかき氷イベント	135
9月24日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	8
9月25日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	7
9月26日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	8
9月27日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	8
9月30日	16:30-19:00	G-フィロス	English Study Lounge	6
10月16日	17:00-18:30	A2-12	英語スピーキング&ライティングセミナー入門	21
11月20日	16:45-18:15	情報メディア館第3実習室	TOEIC®L&Rハーフ模試	27
12月6日	17:00-18:30	G-フィロス	外国語カフェ(モンゴル)	54
12月17日	18:10-19:40	大学会館ラウンジ	Holiday Party	95
2月3日	15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	82
2月4日	15:00-16:00	オンライン	高校生TOEICセミナー	82

## 5. 「英語自律学習ポイントカード」の配布とTOEIC/TOEFL 無料受験資格付与

学生が自律的に英語学習に取り組めるようにするため、上記の各種英語関連サポートや講座に積極的に参加した学生を対象に、特典としてTOEIC® IP L&R/S&W、またはTOEFL ITP®の受験料のうち3,000円をキャッシュバックする取り組みを行っている。この制度を円滑に運用するため、「英語自律学習ポイントカード」を作成し、希望者に配布している。

表2の⑩に示すとおり、「英語自律学習ポイントカード」の発行枚数は、制度開始以降徐々に増加し、2019年度には703枚に達した。コロナ禍においては発行枚数が一時的に大幅減少したものの、その後、各種の取組を重ねた結果、現在ではコロナ禍前の水準を上回るまでに回復している。

## 6. まとめ

グローバル人材の育成に向けて、国際化推進センターでは、外国語力、海外体験、異文化と関わる主体性・積極性、自律的語学学習の4つを柱として、2014年度より継続的に取り組んできた。この中で、2019年度から本学が雇用した英語学習・留学アドバイザーの活動は、学生の英語学習を支える中核的な役割を果たしている。

G-フィロス利用者数は、設立以来順調に増加してきたが、コロナ禍においては活動を大幅に縮小せざるを得ず、利用者数も一時的に減少した。しかし、各種の取組を再開・拡充した結果、2024年度にはコロナ禍前の水準に回

復したとみてよい。

今後も、学生のニーズや学習環境の変化に対応しながら、取組内容の改善・発展を継続していく必要がある。特に、留学生 SA、日本語 SA、英語学習・留学アドバイザー、英語教員が一体となって G-フィロスの活性化を図り、学生一人ひとりが自律的に語学力を伸ばし、グローバル社会で活躍できる基盤をさらに強化していくことが求められる。

## V. 地域貢献

---

国際化推進センターは、キャンパス内だけではなく、地域全体のグローバル化にも貢献したいと考えています。地元教育機関や自治体など、さまざまな団体のイベントや国際交流事業に留学生を派遣することは、地域貢献だけではなく、留学生に異文化交流の機会を与えることにもつながっています。

# 留学生の地域との交流

留学生にとって地域との交流は、自らの暮らす地域をよく知り親しむことで安心して暮らすことができるだけでなく、卒業後も山梨に留まり定住するという選択肢を広げるきっかけともなります。令和6年度は、地域の伝統行事である「武田神社春の例大祭」や地域住民との対話の場である「よっちゃばれ放談会」などに参加しました。以下に実施された活動を報告します。

## 1. 武田神社春の例大祭への参加

2024年4月12日（金）に開催された武田神社春の例大祭に、本学の留学生が参加しました。留学生たちは、伝統的な衣装を身にまとい、地域の方々と共に神輿の行列に参加して甲府の街を練り歩きました。

参加した留学生からは「日本の伝統行事の熱気を肌で感じる事ができた」「地域の人々が温かく迎えてくれて嬉しかった」などの声が聞かれ、山梨の歴史と文化を深く体験する貴重な機会となりました。



## 2. 甲府市「よっちゃばれ放談会」への参加

2025年1月24日（金）に甲府市役所にて開催された「よっちゃばれ放談会」に留学生が参加しました。この放談会は、甲府市が推進する「市民の声」を原点としたまちづくりの一環として、市長が市民や団体の生の声を聴くために開催されているものです。当日は、本学を含む県内4大学の留学生が集まり、甲府市長や他大学の留学生と意見交換を行いました。留学生は、外国人留学生の視点から見た甲府での生活・まちづくりについて発言し、甲府市長と直接対話する貴重な機会となりました。



## 小・中・高等学校への留学生派遣

山梨県内の小・中・高等学校より留学生の派遣依頼があった際、参加を希望する留学生を募集し派遣しています。派遣の要望は主に、国際交流・異文化交流のための授業や行事であることが多く、地域の教育機関の国際交流活動に貢献すると同時に、留学生の異文化体験や日本の教育機関見学の機会にもなっています。2024年度は以下の学校へ訪問しました。

### 1. 甲府第一高等学校「英語ワークショップ」への参加

2025年1月および2月に、甲府第一高等学校で開催された英語ワークショップに留学生が参加しました。

このプログラムは高校生が英語でのコミュニケーション力を高めることを目的としており、高校生と英語で意見を交わす実践的な活動を通じ、相互の異文化理解を深める時間となりました。

### 2. 中央市立玉穂中学校「国際理解学習」への参加

2025年1月17日（金）、玉穂中学校3学年の「総合的な学習の時間」に留学生が参加しました。

「世界の人と交流しよう」という学習テーマのもと、留学生は母国の文化や習慣、日本に来て驚いたことなどを紹介しました。また、生徒からの質問に答えたり、日本の遊びを通じた交流を行ったりすることで、生徒たちが異文化を身近に感じるきっかけを提供するとともに、留学生にとっても、生徒による日本の魅力の紹介や伝統的な遊びの体験を通じて、日本文化に触れる貴重な機会となりました。



## VI. 国際交流関連データ

---

留学生在籍状況をはじめ、国際交流に関連する各種データをまとめて報告いたします。

国際化推進センターとグローバル推進課の行事(2024年度)

年	月	日	活 動 内 容
2024		通年	英語学習アドバイザーによるプライベート英語レッスン、英語学習相談
	4	2	世界展開力 A3I ガイダンス
		3	前期 留学生ガイダンス、日本語プレイスメント・テスト
		8~10	G-フィロス&英語学習サポート説明会 (全3回)
		11	国際交流会館・ANNEX オリエンテーション
		12	武田神社例大祭への参加
		12~5/2	前期イングリッシュ・カフェ (12:20-13:00/18:10-19:00)
		16, 18	レスター大学夏季海外研修説明会
		23~6/27	前期総合英語時間外学習 (オンライン/火・水・木:各10回 18:10-19:10)
		24	スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナー
		30~5/2	日英バイリンガルトークで英語学習についておしゃべり!(ワークショップ)
	5	5/7~7/19	前期イングリッシュ・カフェ (12:20-13:00/16:30-19:00)
		10, 15	夏季海外研修説明会
		13~6/6	前期 TOEIC 講座 (月・水 各4回 16:30-17:40)
		17	イノベーション駆動トラックオリエンテーション (IRCS)
		22	世界展開力強化事業 第7回 A3I 運営委員会
		23	夏季海外研修説明会
		27~7/22	海外研修・交換留学事前授業 Gateway
		29	外国語カフェ(フィリピン)
	6	6	キャリアデザイン演習1 (IRCS)
		11	集中講義「グローバルヘルスの課題解決に挑戦! フィールドワーク計画を立てよう」(夏季短期海外研修・カンボジアプログラム事前準備授業) (15コマ)
		13	キャリアデザイン演習2 (IRCS)
		14	キャリアデザイン演習3 (IRCS)
		14	工学部基礎ゼミ 英語学修 グループI 1回目
		19	留学生交流パートナー説明会
		21	キャリア分析演習 (IRCS)
		21	工学部基礎ゼミ 英語学修 グループII 1回目
		22~23	ホームステイ/ホームビジット
		26	留学生交流パートナー交流会
		27	外国語カフェ(ヨーロッパ)
		28	工学部基礎ゼミ 英語学修 グループI 2回目
		29	JASSO 外国人学生のための進学説明会 (東京)
	7	5	工学部基礎ゼミ 英語学修 グループII 2回目
		5	ビジネスマナー講座I (IRCS)

	12	ビジネスマナー講座Ⅱ (IRCS)
	19	外国語カフェ(ベトナム)
	22~31	English Study Lounge I
	25	納涼・世界のかき氷イベント
	28	留学生交流パートナー旅行 第1回北杜市及び甲府市巡り
8	3~5	夏季海外研修 英国・レスター大学
	6~22	杭州電子科技大学ショートプログラム(中国)・釜慶大学校(韓国)ショートプログラム・サマースクール学生派遣
	8/6~9/11	夏季海外研修 カンボジア
	18~31	A3I ショートプログラム 日本文化体験
9	2	釜慶大学校へ7名のDD参加学生派遣開始
	9	杭州電子科技大学へ1名のDD参加学生派遣開始
	19	留学生ガイダンス、日本語プレイスメント・テスト
	19	後期 留学生ガイダンス、日本語プレイスメント・テスト
	24~30	English Study Lounge II
10	1~31	後期イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00/18:10-19:00)開始
	10~12/19	後期総合英語時間外学習開始(オンライン:木 計10回)
	16	英語スピーキング&ライティングセミナー
	17~11/18	後期TOEIC講座(月・木 各4回 16:30-17:40)
	17	国際交流会館・ANNEX オリエンテーション
	23, 28	春季海外研修説明会
	29	世界展開力強化事業 A3I 報告会
11	3	留学生の華道体験
	5	春季海外研修説明会
	5~1/16	後期イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00/16:30-19:00)
	10	やまなしジュニアドクター育成自然塾 グローバルコミュニケーション講義(G-フィロス)
	13	山梨県主催外国人留学生就職ガイダンス&交流会
	19	甲府警察署による留学生のための防犯講話
	19	集中講義「グローバルヘルスの課題解決に挑戦!フィールドワーク計画を立てよう」(春季短期海外研修・カンボジアプログラム事前準備授業)(15コマ)
	20	TOEIC L&R ハーフ模試
	20, 21	春季海外研修相談会
	21~25	JASSO 日本留学フェア(インドネシア)
	24	やまなしジュニアドクター育成自然塾 グローバルコミュニケーション講義(調理室)
12	6	外国語カフェ(モンゴル)

		11	令和6年度学長主催山梨大学外国人留学生懇談会
		12	業界・企業研究1 (IRCS)
		17	Holiday Party
		19	業界・企業研究2 (IRCS)
2025	1	14	SPI 対策講座1 (IRCS)
		15	SPI 対策講座2 (IRCS)
		15	留学生交流パートナー交流会
		15~22	日本文化体験プログラム
		17	就職活動体験談会 (IRCS)
		17	玉穂中学校との異文化交流会への参加
		24	甲府市「よっちゃばれ放談会」への参加
		25, 2/1, 2/8	甲府第一高等学校高校生とのワークショップ (交流事業) への参加
	2	2/2~3/8	春季海外研修 米国・ケンタッキー大学
		3	入学前教育 TOEIC®L&R セミナー Listening
		3	留学生交流パートナー旅行第2回
		4	入学前教育 TOEIC®L&R セミナー Reading
		6	企業文化セミナー (IRCS)
		15~18	杭州電子科技大学へ山梨大学教員を派遣
		15~23	マレーシア・ペルリス大学ショートプログラムに学生派遣
		18	世界展開力強化事業 学生企業訪問
		19	企業見学会1 (IRCS)
		20~21	留学生実地見学旅行
		23~3/23	春季海外研修 カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学 English Language Institute
		25	企業見学会2 (IRCS)
	3	1~21	春季海外研修 カンボジア
		25, 28	4月入学留学生のチューター、サポーター向け説明会
		31	ビジネスマナー講座Ⅱ (IRCS) Ⅲ (IRCS)
		31	就職相談会 (IRCS)

2024 年度留学生在籍状況(国別) 基準日：5月1日

#	国籍 Nationalities	大学院生 Graduate Students			学部生 Undergraduates			研究生 Research Students		特別聴講 Visiting Students		計 Total			合計Total
		国費 MEXT	政府派遣 Foreign Government	私費 Private	国費 MEXT	政府派遣 Foreign Government	私費 Private	国費留学 MEXT	私費留学 Private	国費留学 MEXT	私費留学 Private	国費 MEXT	政府派遣 Foreign Government	私費 Private	
1	中華人民共和国 People's Republic of China			81			24		4	1	5	1		114	115
2	マレーシア Malaysia	2		11		12	5	1				3	12	16	31
3	ベトナム Viet Nam	2		5			3					2		8	10
4	インドネシア Indonesia	8										8			8
5	大韓民国 Republic of Korea			4			2							6	6
6	タイ Thailand	4		1								4		1	5
7	バングラデシュ Bangladesh	4		1								4		1	5
8	ガーナ Ghana	3		1								3		1	4
9	スリランカ Sri Lanka	2		2								2		2	4
10	ドイツ Germany			1							3			4	4
11	インド India			2										2	2
12	フィリピン Philippines	1						1				2			2
13	台湾 Taiwan			2										2	2
14	イギリス United Kingdom										1			1	1
15	エチオピア連邦民主共和国 Federal Democratic Republic of Ethiopia			1										1	1
16	カンボジア Cambodia	1										1			1
17	ギニア共和国 Republic of Guinea			1										1	1
18	ザンビア Zambia			1										1	1
19	ソロモン諸島 Solomon Islands			1										1	1
20	ネパール Nepal	1										1			1
21	パキスタン Pakistan			1										1	1
22	パナマ共和国 Republic of Panama			1										1	1
23	ブラジル Brazil			1										1	1
24	フランス共和国 French Republic										1			1	1
25	ブルキナファソ Burkina Faso			1										1	1
26	マダガスカル共和国 Republic of Madagascar			1										1	1
27	モザンビーク共和国 Republic of Mozambique			1										1	1
28	モンゴル Mongolia						1							1	1
29	南スーダン共和国 Republic of South Sudan			1										1	1
	総計	28		122		12	35	2	4	1	10	31	12	171	214

受入留学生の推移(過去4年間) 基準日：5月1日

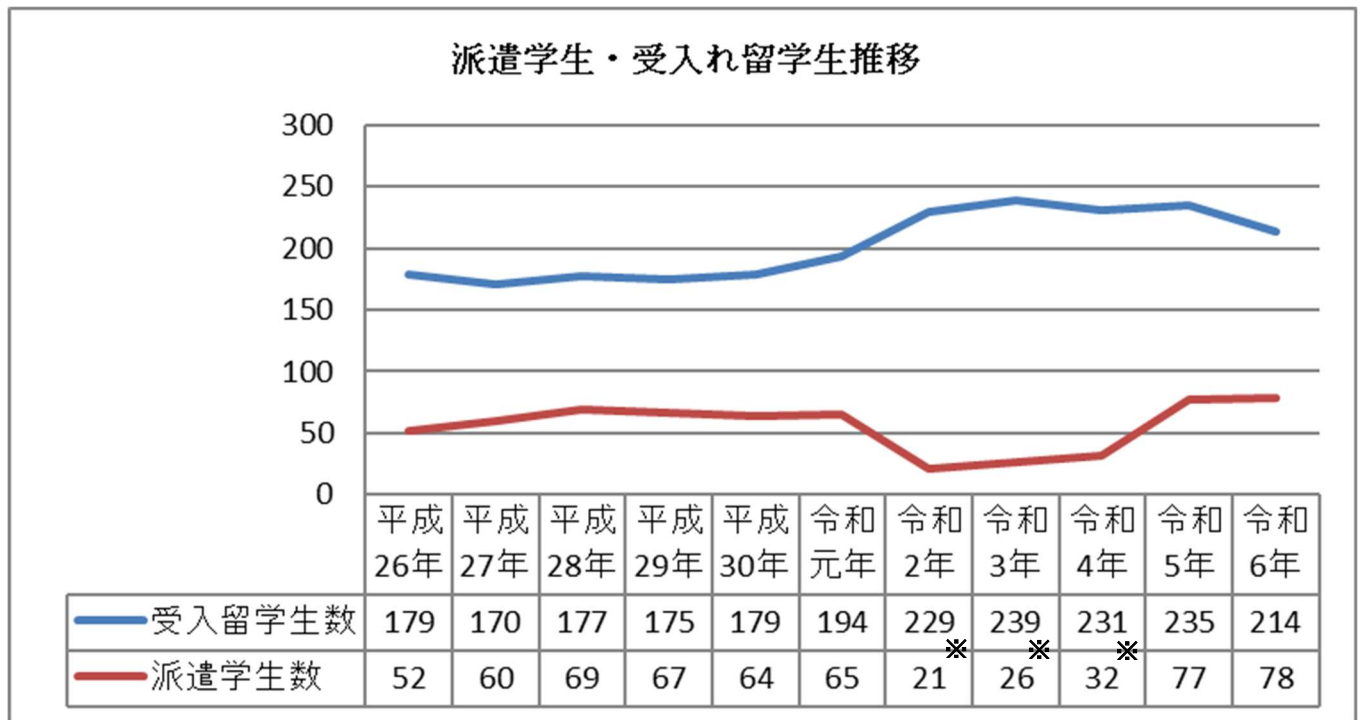
	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
国費留学生	0	16	0	19	8	17	1	30
政府派遣留学生	11	0	12	0	11	0	12	0
私費留学生	90	122	77	123	74	125	49	122
合計	239		231		235		214	

派遣留学生の推移(過去4年間)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
交換留学	0	6	2	8
A3I 中長期留学	0	4	5	8
夏季・春季海外研修 (海外インターンシップ参加者)	26 (オンライン)	22 (うちオンライン15名)	71	62
合計	26(オンライン)	32	77	78

※令和3年度、4年度夏季は新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

<図:派遣学生・受け入れ留学生推移>



※新型コロナウイルス感染症の影響のため海外派遣実施不可。オンラインにて研修を実施。

奨学金受給者数(私費外国人留学生)

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
学習奨励費	0	10	0	9	6	1	2	9
学習奨励費(就職支援特別枠)	11	10	15	24	2	12	3	8
学習奨励費(コロナ支援)	6	8	/	/	/	/	/	/
(財)ロータリー米山記念奨学会	2	0	2	0	3	0	1	2
朝鮮奨学会	1	1	1	0	1	0	0	0
(財)共立国際奨学財団	0	0	0	0	0	0	0	1
日揮・実吉奨学会	0	1	1	0	0	1	0	1
山梨大学大学院博士課程私費外国人留学生支援金	/	15	/	11	/	10	/	10
甲府市ふるさと応援補助金による大学院博士課程私費外国人留学生支援金	/	0	/	0	/	0	/	0
高度外国人材育成課程履修支援制度	/	/	/	/	4	10	6	9

新規協定締結校(2024年度)

	国名・地域名 Country/Region	大学等名 Institution	締結年月日 Agreement date
大学間	フィリピン	サントトマス大学	2024. 4. 30
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	2024. 8. 4
	カンボジア	王立プノンペン大学	2024. 8. 26
	トルコ	チャナッカレ オンセキズ マルト大学	2025. 1. 14
	スロベニア	ノヴァ・ゴリツァ大学	2025. 2. 28
	バングラデシュ	クルナ大学	2025. 3. 10
	バングラデシュ	クルナ工科大学	2025. 3. 10
部局間	ニュージーランド	ハミルトン・イースト・スクール(小学校)(教育学部)	2025. 2. 7
	アメリカ合衆国	レキシントン公立学校(小学校)(教育学部)	2025. 2. 25

### JSPS 国際交流事業申請状況

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
外国人特別研究員(一般)	9	0	10	2	5	1	2	1
外国人特別研究員 (欧米短期)	1	1					0	0
外国人招へい研究者 (長期)			1	1			2	0
外国人招へい研究者 (短期)			2		2	0	2	0
研究拠点形成事業 A			1				0	0
国際共同研究事業			1				2	0
二国間交流事業	2	0	1		4	0	3	0
論文博士号取得希望者支援							1	1

### JSPS 研究者養成事業申請状況

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
海外特別研究員			1	0			0	0
海外特別研究員(RRA)							2	1
若手研究者海外挑戦							2	0
日本学術振興会賞							0	0
日本学術振興会育志賞			1	0			0	0

### その他国際交流事業申請状況

	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
さくらサイエンス	0	0	1	1	4	3	3	2
JASSO(短期派遣)	1	1	3	3	4	4	5	5
JASSO(短期受入)	2	2	5	4	4	3	3	3
JASSO(双方向)	0	0	0	0	0	0	0	0

